

山梨市文化財調査報告書 第32集

西田遺跡・栗原氏屋敷跡

— 県営畑地帯総合整備事業上栗原地区農道2号(1工区)改良工事に伴う発掘調査報告書 —

2019.3

山梨県峡東農務事務所
山梨市教育委員会
昭和測量株式会社

山梨市文化財調査報告書 第32集

西田遺跡・栗原氏屋敷跡

— 県営畑地帯総合整備事業上栗原地区農道2号(1工区)改良工事に伴う発掘調査報告書 —

2019.3

山梨県峡東農務事務所
山梨市教育委員会
昭和測量株式会社

序

本書は県営畑地帯総合整備事業上栗原地区農道2号(1工区)改良工事に伴って行われた西田遺跡および栗原氏屋敷跡発掘調査の報告書です。調査地周辺は栗原氏の館跡に比定されており、調査地に隣接する妙善寺境内には館の守護神と伝えられる荒神堂があったことが知られています。調査は722㎡の範囲を4区画に分けて行われました。

調査では中世から近世の水路や流路、土塁や堀らしき遺構が発見されました。また、甲州金の一種である新甲金の甲安中金が出土しましたが、市内ではこれまで他に例を見ないもので、貴重な発見となりました。

最後になりますが、調査を担当していただいた昭和測量株式会社の皆様をはじめ関係各位に心から感謝申し上げます、序といたします。





平成31年3月

山梨市教育委員会
教育長 市川今朝則

例言

1. 本報告書は、山梨県山梨市上栗原字西田 11 番 5 外に所在する西田遺跡・栗原氏屋敷跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は県営畑地帯総合整備事業上栗原地区農道 2 号 (1 工区) 改良工事に伴う発掘調査であり、山梨市教育委員会監理の下、昭和測量株式会社が調査を実施した。
3. 調査監理は現地調査を山梨市教育委員会生涯学習課の駒田真人、整理作業を兩宮弘聡が担当し、調査実施は昭和測量株式会社の高野高潔が現地調査及び整理作業を担当した。
4. 本調査に関わる費用は山梨県峡東農務事務所が負担した。
5. 発掘調査は平成 29 年 1 月 15 日～平成 30 年 3 月 20 日にかけて実施し、整理・報告書刊行業務は平成 30 年 9 月 25 日～3 月 11 日まで実施した。
6. 発掘調査および本報告書の執筆は、
第 1 章を兩宮弘聡 (山梨市教育委員会)、第 4 章第 2 節を新津健 (昭和測量株式会社顧問) が担当し、その他と全体編集を高野高潔 (昭和測量株式会社) が担当した。
遺物の実測・トレースは、今福ともみ・小宮山みや子・齋藤里美・佐野香織・広瀬ありさ・藤原由香・三木一恵・渡邊麗子が行った。遺物写真は、高野が撮影を行った。
7. 本報告書で使用地図は、国土地理院発行の「石和」「塩山」(1:25000) を使用した。
8. 遺跡における X、Y 座標は世界測地系座標を使用している。
9. 古金貨密度測定は西脇康 (東京大学史料編纂所所属・東京国立博物館客員研究員・日本計量史学会理事) に測定して頂いた。
10. 発掘調査および遺物の整理においては次の方々にご指導と御協力を賜った。感謝の意を表したい。
出月洋文、河西学、小松美鈴、中山誠二、萩原三雄、畑大介、原正人、藤澤明、三澤達也、香陽山妙善寺、甲斐黄金村湯之奥金山博物館 (順不同、敬称略)
11. 本調査における図面・写真・遺物はすべて山梨市教育委員会が保管している。

凡例

1. 遺構・遺物の挿図縮尺は、各挿図中に記載した。
2. 写真図版の縮尺は任意である。
3. 水系レベルの数字は海拔高を示し、単位はメートル (m) である。
4. 土層断面、遺物観察表中の色調は『新版標準土色帖 1990 年版』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修) に基づいた。
5. 遺物実測図の土器類は断面白抜き  が土師器、断面黒塗り  が須恵器、断面淡灰色  が灰釉陶器を表している。土師器の濃灰色範囲  は黒色処理範囲を表している。

目次

序	
例言	
凡例	
目次	
挿図・表目次	
第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の立地と歴史的環境	
第1節 遺跡の立地	1
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の方法と成果	
第1節 調査の方法	6
第2節 調査の概要	8
第3節 遺構・遺物	9
第4章 まとめ	
第1節 栗原氏屋敷跡の遺構	42
第2節 栗原氏屋敷跡の中世土器	45
写真図版	

挿図目次

第1図	遺跡位置図	2	第17図	3区(2)	23
第2図	周辺の遺跡分布図	3	第18図	3区(3)	24
第3図	栗原村絵図	4	第19図	3区(4)	25
第4図	栗原氏館推定地の地割	4	第20図	3区(5)	26
第5図	調査範囲	4	第21図	出土遺物 3区(1)	27
第6図	調査区全体図	7	第22図	出土遺物 3区(2)	28
第7図	1区1トレンチ	13	第23図	出土遺物 3区(3)	29
第8図	1区2トレンチ	14	第24図	出土遺物 3区(4)	30
第9図	1区3トレンチ	15	第25図	4区(1)	31
第10図	1区4トレンチ(1)	16	第26図	4区(2)	32
第11図	1区4トレンチ(2)	17	第27図	出土遺物 4区(1)	33
第12図	出土遺物 1区1~4トレンチ	18	第28図	出土遺物 4区(2)	34
第13図	2区(1)	19	第29図	全体図	43
第14図	2区(2)	20	第30図	1区・2区 中世土器・陶器	47
第15図	出土遺物 2区	21	第31図	3区 中世土器・陶器	48
第16図	3区(1)	22			

表目次

表1	遺物観察表	35
----	-------	----

第1章 調査に至る経緯

山梨県峡東農務事務所では平成21年度以降、上栗原地区で畑地帯総合整備事業を行っており、今回調査対象となった農道2号（第1工区）改良工事もその一環として行われた。

農道2号周辺は、山梨市教育委員会と峡東農務事務所の事前協議により、西田遺跡および栗原氏屋敷跡に該当していることが明らかになっており、平成28年7月22日に埋蔵文化財発掘の通知が峡東農務事務所より山梨市教育委員会に提出され、平成29年3月22日から24日にかけて山梨市教育委員会による試掘調査が行われた。試掘調査の結果、全体的に土師質土器片の出土がみられたこと、版築の可能性のある砂層の分布がみられたことから、今回の発掘対象地である722㎡について遺跡の保護について峡東農務事務所と山梨市教育委員会で協議を行った結果、記録保存調査を行うこととなった。業務の都合により山梨市教育委員会による調査が困難であったため、峡東農務事務所は昭和測量株式会社に調査を委託、10月27日に山梨市教育委員会を含めた三者協定を結び山梨市教育委員会が調査の監理をすることとし、11月1日に文化財保護法92条の届出が昭和測量株式会社から山梨市教育委員会に提出され、11月27日に山梨県教育委員会が埋蔵文化財発掘調査について昭和測量株式会社に通知、12月15日から調査に着手する運びとなった。

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第1節 遺跡の立地

西田遺跡・栗原氏屋敷跡は山梨県山梨市の南端に位置する（第1図）。甲府盆地の東縁に当たり、東方には標高1,000～2,000m級の小金沢連峰がある。当遺跡は小金沢連峰を源とする日川の右岸に位置し、東から西へと緩やかに下る平地上に立地する。標高は約320mである。

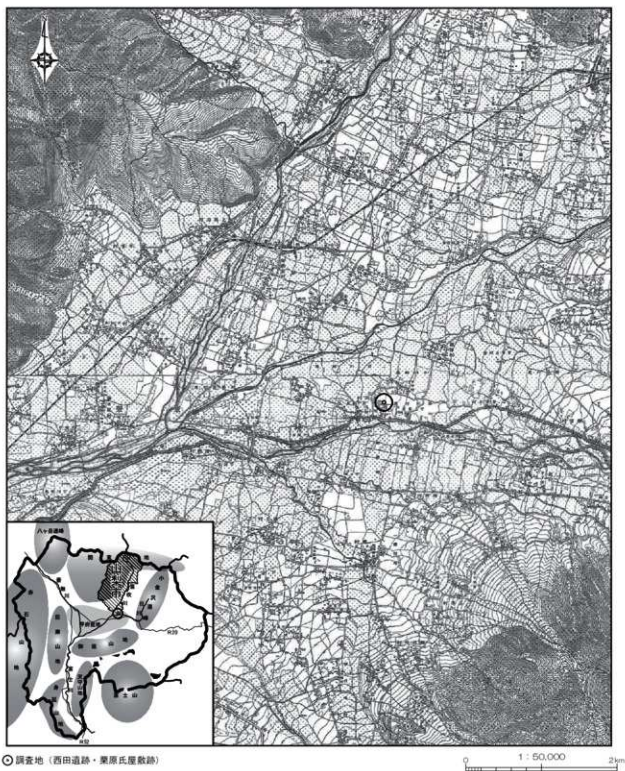
日川は小金沢連峰を南下し、山地から甲府盆地へ出ると西へ流れを変える。西流した日川は笛吹川へと合流し甲府盆地の南縁を更に西へ流れる。甲府盆地南端で笛吹川は釜無川と合流して富士川となり甲府盆地を出て太平洋へと注いでいる。日川は明治40年、43年の水害が知られており、特に明治40年の大水害では8月に5日間続いた大雨により、甲府盆地東部の峡東地域中心に多大な被害が出ている。日川を含む周辺の重川や御手洗川、金川、笹子川の上流域で山の崩壊が多発し、押し流されてきた土砂や大水により家屋の倒壊や集落の孤立、耕地の流出や埋没、交通の寸断など甚大な被害が出ている。

西田遺跡と栗原氏屋敷跡は北と南で隣接しており、調査地点は両遺跡にまたがり位置する（第2図）。南側の栗原氏屋敷跡は日川右岸の自然堤防上の微高地にあり、北側の西田遺跡はその後背地に立地する。微高地と後背地の境には、日川から取水した用水堰が西流している。先の水害時には後背地には土砂が流入し堆積したが、微高地は被害を免れたと言われている。現在の大まかな土地利用区分は、微高地上に寺社地・宅地、後背地が耕地となっている。

西田遺跡・栗原氏屋敷跡の南側は国道411号に面している。ここで面している国道411号の区間は旧国道20号であり、旧甲州街道である。旧甲州街道は日川に沿って東へと延び、勝沼を経て山地に入り笹子峠に続いている。この経路は山に囲まれた甲府盆地へ出入りする主要な経路の一つである。また、日川に沿って西へと延びた街道を進むと笛吹川に当たる。笛吹川を渡り石和を経て甲府へと続いている。西田遺跡・栗原氏屋敷跡は甲府盆地の東の玄関口であり、笛吹川の手前から甲府を見晴らせる高台の要衝の地に立地している。

第2節 歴史的環境

西田遺跡（1）は縄文時代・平安時代遺跡として範囲東西約200m、南北約200m、栗原氏屋敷跡（2）は中世の遺跡として範囲東西約350m、南北約250mの規模で周知されている（第2図）。調査地点（☆印）は南北に隣接する両遺跡にまたがり位置している。栗原氏屋敷は14世紀後半に甲斐守護を勤めた武田信成の子、武統を祖とした栗原氏の城館跡である。寛永8年に栗原氏断絶後、大翁寺を建立し現在に至

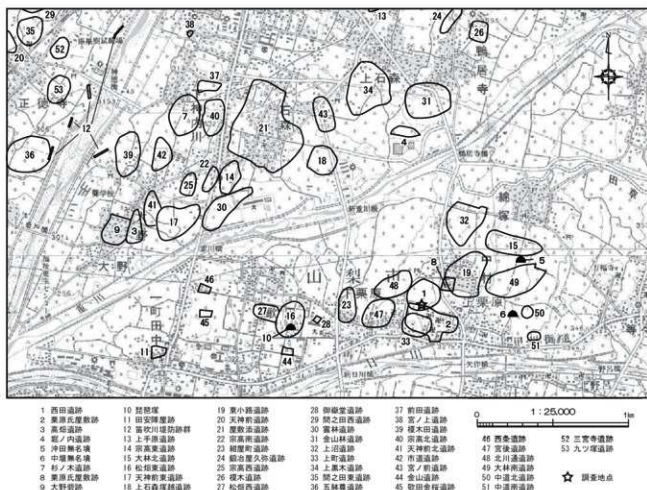


第1図 遺跡位置図

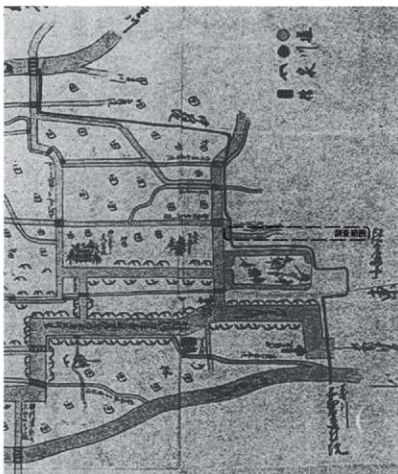
るとされ、文化3年の「栗原村絵図」には大翁寺境内を取り囲み土塁が残る様子が描かれている（第3図）。この土塁の東側部分は現在でも比較的明瞭に判別でき、北側部分も盛り上がりを確認することができる。栗原氏屋敷跡は大翁寺域に加え妙善寺、海鳥寺、大法寺を含む範囲を比定している（第4図）。大翁寺の北東となる妙善寺境内には荒神堂があったとされ、大翁寺の南西角の弁財天とともに館の守護神と伝えられている。妙善寺は康正元年に死去した栗原出羽守を開基とし、海鳥寺は開基を武田信虎の伯母、二世を信玄の伯母と伝えている。大翁寺所蔵の栗原氏系図には「法性海道寺入道」「海洞寺法性」の名が記されている。妙善寺、海鳥寺、大法寺はそれぞれ1町四方の規模を持つ方形区画であるが、各地区が時期の異なる方形居館の変遷を示しているのかは明らかとなっていない。幅の広い堀と土塁で防御が施された時期の館は大翁寺境内を中心にしたものと推定され、15世紀末頃から16世紀前半に整備された居館とされている。

調査地点は栗原氏屋敷跡に比定されている北辺に当たる。屋敷跡北辺を東西に道が伸び、その道に沿って日川から取水した用水堰が西流している。一部に現況では見えない水路の分岐も認められる（第5図）。

縄文時代・平安時代の西田遺跡、中世の栗原氏屋敷跡が位置する山梨市南部地域には、縄文時代から中近世にかけての遺跡が多数分布している。時代を追って主な遺跡を挙げると、高畑遺跡（3）では土偶を多出する縄文時代中期の大規模集落や平安時代の大野郷の中核的な集落などが明らかとされている。堀ノ内遺跡（4）では弥生時代の焼失住居から豊富な遺物が検出されている。古墳時代の遺跡では、横穴式石室から鉄刀、刀子、馬具、玉類が出土した沖田無名墳（5）、横穴式石室から鉄刀や須恵器が



第2図 周辺の遺跡分布図



第3図 栗原村絵図



第4図 栗原氏館推定地の地割



第5図 調査範囲

出土してる中堰無名墳（6）がある。杉ノ木遺跡（7）では墨書土器も出土した平安時代の集落跡が確認されている。中近世では調査地点北東に隣接して『甲斐国志』が養安寺境内と伝える栗原氏屋敷跡（8）がある。また、東後屋敷の武田金吾屋敷も栗原氏一族の屋敷跡と推定されることから、栗原氏の屋敷が大翁寺境内に一貫して存在したかは不明とされる。また、調査地より3kmほど東には武田信虎の弟勝沼五郎信友とその子信元の居館とされる勝沼氏館跡や、武田氏一族の岩崎氏六代の居館とされる岩崎氏館跡がある。大野砦跡（9）は天正壬午の戦いに際した城砦とされる。琵琶塚（10）は御嶽山とも称され春彼岸には祭典が行われていたという。寛政年間に描かれた『甲州道中分間延絵図』には三峯大御嶽塚の記載もみられる。田安陣屋跡（11）は延享4年に設置され明治三年まで存続した田安家の陣屋である。

そのほか上原遺跡（13：縄文）、宗高東遺跡（14：縄文）、大林北遺跡（15：縄文・弥生・古墳・平安・中世）、松畑東遺跡（16：縄文・古墳・奈良）、天神前東遺跡（17：縄文・平安）、上石森塚越遺跡（18：縄文・平安）、東小路遺跡（19：縄文・平安）、天神前遺跡（20：縄文・平安・中世）、屋敷添遺跡（21：縄文・平安・中世）、宗高南遺跡（22：弥生・古墳）、紺屋町遺跡（23：弥生・古墳・平安）、鍛冶屋久弥遺跡（24：古墳）、宗高西遺跡（25：古墳）、榎木遺跡（26：古墳）、松畑西遺跡（27：古墳）、御嶽堂遺跡（28：古墳）、間之田西遺跡（29：古墳・平安）、雲林遺跡（30：古墳・平安）、金山林遺跡（31：古墳・平安）、上沼遺跡（32：古墳・平安）、上町遺跡（33：古墳・平安・中世）、上黒木遺跡（34：奈良・平安・中世）、間之田東遺跡（35：平安）、五鉢尊遺跡（36：平安）、前田遺跡（37：平安）、宮ノ上遺跡（38：平安）、榎木田遺跡（39：平安）、宗高北遺跡（40：平安）、天神前北遺跡（41：平安）、市道遺跡（42：平安）、宮ノ前遺跡（43：平安）、金山遺跡（44：平安）、歌田金桜遺跡（45：平安）、西条遺跡（46：平安）、宮後遺跡（47：平安）、北川通遺跡（48：平安）、大林南遺跡（49：平安）、中道北遺跡（50：平安）、中道南遺跡（51：平安）、三宮寺遺跡（52：平安・中世）、九ツ塚遺跡（53：平安・中世）など多数の遺跡が分布している。

参考文献

- 日川村誌編纂委員会 1959『日川村誌』
山梨県教育委員会 1977『(伝) 岩崎館跡発掘調査報告書』
山梨市役所 2005『山梨市史』史料編考古・古代・中世

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

発掘調査は平成 29 年 12 月 15 日に開始し、平成 30 年 3 月 20 日に終了した。調査区は 4 m 幅の道路が東西に約 250 m 延びている形状である。調査区は四つに区分し、西から東へ 1 区から 4 区とした（第 6 図）。各調査区の大まかな調査順序は、1 区、2 区、4 区、3 区である。合計の調査面積は 722 m²である。以下に、従事した各調査区の作業期間と内容を示す。

1 区では 12 月 18 日に重機による表土除去を開始。12 月 19 日に表土等掘削段階確認を行い、1 月 18 日に遺物包含層掘削・遺構掘削段階確認を行った。1 月 19 日に埋め戻しをした。1 区では 4ヶ所トレンチを設定し、包含層の掘削、遺構と遺物の検出を行った。主に中世と平安時代の遺構・遺物を検出した。トレンチ 4ヶ所の合計調査面積は 128 m²である。

2 区では 2 月 3 日に重機による表土除去を開始。2 月 6 日に表土等掘削段階確認を行い、2 月 15 日に遺物包含層掘削・遺構掘削段階確認を行った。2 月 19 日に埋め戻しをした。2 区では全面を表土掘削し 126 m²の調査面積において、包含層の掘削、遺構と遺物の検出を行った。主に中世と平安時代の遺構・遺物を検出した。

4 区では 2 月 3 日に重機による表土除去を開始。2 月 6 日に表土等掘削段階確認を行い、2 月 28 日に遺物包含層掘削・遺構掘削段階確認を行った。3 月 12 日に埋め戻しをした。4 区では全面を表土掘削し 120 m²の調査面積において、包含層の掘削、遺構と遺物の検出を行った。主に近世と近代の遺構・遺物を検出した。

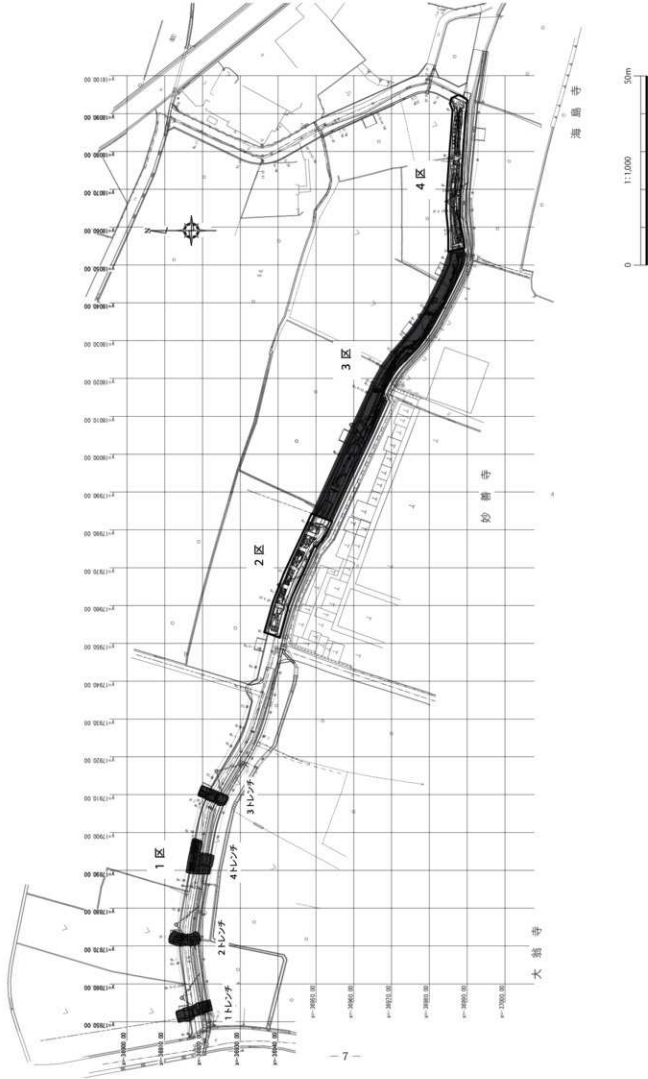
3 区では 2 月 19 日に重機による表土除去を開始。2 月 24 日に表土等掘削段階確認を行い、3 月 16 日に遺物包含層掘削・遺構掘削段階確認を行った。3 月 20 日に埋め戻しをした。3 区では全面を表土掘削し 348 m²の調査面積において、包含層の掘削、遺構と遺物の検出を行った。主に中世と近世の遺構・遺物を検出した。3 月 20 日の 3 区埋戻しをもって現場を終了し、3 月 26 日に埋蔵物発見届を日下部警察署に提出した。

遺構や遺物出土地点等の記録作業は、写真撮影、実測、測量等により適宜実施した。空中撮影は各調査区で実施し、合計 4 回撮影した。

遺物包含層及び遺構から出土した遺物は順に番号を付して、トータルステーションシステムを使用して位置を計測し取り上げを行った。小破片については一括出土遺物として取り上げた。遺構・遺物の写真撮影は一眼レフデジタルカメラを使用した。

遺構の計測および土層断面・遺物出土状況図の写真測量は、CUBIC 社製トータルステーションシステム電子平板「遺構くん」および Agisoft 社製「PhotoScan Professional」を使用した。「遺構くん」、「PhotoScan Professional」により作成した図面および補正した写真測量写真から adobe 社製「illustratorCC」、「PhotoshopCC」を使用して全体図、個別図、土層断面図を作成した。

整理作業は出土遺物の水洗、注記、接合、実測遺物の選定、実測、トレース、写真撮影、図版作成、調査報告書編集、版下データ作成を行った。遺物の実測は手描きで行い、実測図をスキャナーでデジタルデータに変換した。トレースから調査報告書の版下データ作成までは adobe 社製「illustratorCC」、「PhotoshopCC」、「InDesignCC」を使用してデジタルデータで行った。遺物の写真撮影は一眼レフデジタルカメラを使用した。



第6図 調査区全体図

調査体制

調査顧問 新津健

調査担当者 現場・整理作業担当者：高野高潔、基準点測量担当者：曾根孝、相川喜美雄、
空中撮影担当者：深沢洋樹、吉田奏司

発掘調査者：青柳正史、浅川晃一、長田秋文、小澤美幸、北野礼子、齋藤里美、土屋常子、
内藤敏夫、中澤保、原田隆邦、広瀬ありさ、松本榮一、三木一恵、横内光夫、
渡邊樹里、渡邊麗子

整理作業者：浅川悠起子、今福ともみ、尾川正美、小澤美幸、垣内律子、北野礼子、小宮山みや子、
齋藤里美、佐野香織、土屋常子、広瀬ありさ、藤原由香、三木一恵、渡邊麗子

使用システム

トータルステーション	TOPCON SOKKIA CX-105
電子平板	Panasonic TOUGHBOOK CF-19
遺構実測支援ソフト	CUBIC 社「遺構くん」電子平板対応
写真測量ソフト	Agisoft 社「PhotoScan Professional」
デザインソフト	adobe 社「illustratorCC」
写真ソフト	adobe 社「PhotoshopCC」
編集ソフト	adobe 社「InDesignCC」

第2節 調査の概要

調査区は現況の道路を拡幅する範囲である。道路は東西に延び、南縁に日川から取水する水路がある。北側は道路と同じ高さで続く耕作地、南側は道路より一段上がる高さに耕作地および妙善寺境内・墓域がある。段差部は水路の立ち上がりを延長するかたちで石積みやコンクリートブロックが積まれ土止めされている。調査区は四つに区分し、西から東へ1区から4区とした（第6図）。栗原氏屋敷跡の地割に当てはめると、1区は大翁寺の北側に当たる。大翁寺の北側の土塁から北に約90mの位置で土塁と並行する区間である。2区と3区は妙善寺の北辺、4区は海鳥寺の北辺に当たる。各区とも地割の北辺に当たるため土塁や堀の遺構が想定された。

1区では南北方向に4ヶ所トレンチを入れ、断面で土塁や堀の遺構を検討した。トレンチの設定箇所は土塁の遺構想定を考慮して設定した。1区の東端は現況道路と南側の耕作地に比高差がなく平らなため、南側の一段高い耕作地との段差が明瞭な範囲を中心にトレンチを4ヶ所設定した。その結果、現況道路部分は水道の本管や何度も付け替えられた灌漑用水管による攪乱範囲が広いことが明らかとなった。また道路南側も、水路や一段高い畑地の擁壁により攪乱されていた。道路と同じ高さで続く北側の畑地では耕作土直下から白色の砂層が厚く堆積していることが分かった。地山の礫層まで掘り抜いた結果、いずれのトレンチでも南から北へ落ち込む土層が確認されたが、1・2トレンチでは攪乱範囲が広く明確な遺構は確認出来なかった。3トレンチでは落ち込みが埋没した後の面で中世の土師質土器が出土した。4トレンチでは落ち込みの埋土中から中世の土師質土器が出土し、落ち込みの下から東西に延びる石列を検出した。石列の埋土からは平安時代の土師器が出土した。石列は両端とも不明瞭になり、一定の大きな石が向きを整えて二段に積まれている様子が検出できたのはわずかな範囲であった。

1区では地山礫層面および北側の土層断面で確認できる砂礫層の堆積状況から何度も水が流れていた

様子が分かった。調査区北側は河川の旧流路と思われる。また、地山礫層の上面では摩滅した縄文土器片も出土した。

2区は水道管や灌漑用水管の敷設がない区間として調査を開始した。途中で旧水道管の攪乱が2区南縁にのびていることが明らかとなったが、平面的に精査をすることができた。しかし、明確な遺構は検出できず、1区に比べて全体的に地山の礫層が浅いところで検出された。細かくは地山の礫層が検出できる高さには東側が高く西側では低いという変化があり旧流路が蛇行する様子が見て取れた。遺物は地山の礫層の上を覆う水性堆積の砂礫層の中から中世の土師質土器が近世の陶磁器と混ざって高い位置から出土している。平安時代の土師器は地山の礫層が落ち込む西側の深いところから出土しているが遺構として捉えることはできなかった。

3区は現況の道路部分に灌漑用水の本管が東西に敷設されている区間であった。また、3区西側の現況道路の幅が広い部分ではアスファルト舗装の下から埋められた旧水路のコンクリ壁が検出され、水路を付け替え道路を拡幅した時の攪乱範囲があることが判明した。3区の西側は2区の東側に引き続き地山の礫層が浅い位置で検出され、中世の土師質土器がまとまって出土している。3区の東側からは近世の水路が検出され、多量の陶磁器類とともに近世の甲州金が出土した。

4区は現況道路下に埋設管が敷設されていない区間で、4区を通して近世の水路が検出された。水路からは多量の陶磁器類や寛永通宝などが出土している。また、4区の西側では近世の水路の上から、近代の石列と畑の畝が検出された。石列と畑の畝は明治40年の水害時に堆積したと考えられる厚い白砂層に覆われていた。4区では地山の礫層は3区の東側と同様に深い位置で検出された。

調査区北側の耕作土下では一様に白砂層が堆積していることが確認できた。また、4区では近代の石列の下から近世の水路が検出されていることなどから、近世以前は現況よりも北側が低い地形であったことが分かった。明確な土塁や堀の遺構は検出出来ていないが南と北の比高差があったことが分かった。

第3節 遺構・遺物

①1区1トレンチ（第7・12図、写真図版2・14）

1区1トレンチでは明確な遺構は確認できなかった。主な遺物は、中世の土師質土器：かわらけ（1～5）、近世の磁器：碗（6）が出土している。

1区は15世紀末頃から16世紀前半の時期の栗原氏屋敷の中心と目される大翁寺境内の北側にあたる調査区である。幅の広い堀と土塁で防壁が施された屋敷跡の様子が、大翁寺の東側の地形で現在でも比較的明瞭に判別でき、北側部分も土塁の盛り上がりを確認することができる。1区は北側に残る東西に延びた土塁から北に約90mの位置で、土塁と並行する区間である。東西に細長い調査区の中で南側の畑地が高く北側の地面（水路・道路・北側の畑地）と段差がある地形のため、東西に延びる土塁や堀の遺構を想定して、これに直行する南北方向にトレンチを設定して地山の礫層まで掘り抜く調査を実施した。

1トレンチは東西に長さ100mの1区の中で一番西に位置する。方形区画の北西角の可能性のある調査区西端から約5mの位置に、幅3m、長さ10mのトレンチを南北方向に設定した。現況道路と南側の一段高い耕作面との比高差は約60cmである。道路下約1.6mまで掘り抜き地山の礫層を検出した。

1トレンチでは現況道路部分は広く攪乱されていることがわかった。道路下に敷設された水道管本管や何度も付け替えられた灌漑用水管のためである。また、道路南側の水路や一段高い畑地の擁壁による攪乱もあり、全体的に調査区内の攪乱範囲が広いことが明らかとなった。また、土層断面からは南から北へと下る地形に礫層、砂層、砂質土層が互層に堆積する様子が観察でき、東から西へと流れる水流が強

弱をなし、日川の自然堤防の後背地が氾濫と安定を繰り返す様が見て取れた。遺物は砂質土層から出土している。南側の畑地の耕作土下に5cm大の礫が集中する厚さ10cm程の層を検出したが、検出範囲が部分的であることもあり、明確な遺構とは確認出来なかった。また、北側の畑地では耕作面直下から白色の砂層が60cm程の厚さで堆積し、耕作土として攪拌されていることが分かった。

②1区2トレンチ (第8・12図、写真図版2・14)

1区2トレンチでは明確な遺構は確認できなかった。主な遺物は、中世の土師質土器:かわらけ(1)が出土している。

2トレンチは1区の中で西から二番目に位置する。西から約25mの位置に、幅3.5m、長さ8.5mのトレンチを南北方向に設定した。現況道路と南側の一段高い耕作面との比高差は約80cmである。道路下約1.8mまで掘り抜き地山の礫層を検出した。

2トレンチでも1トレンチと同様に攪乱範囲が広いことが明らかとなった。また、土層断面でも同様に南から北へと下る地形に礫層、砂層、砂質土層が互層に堆積する様子が観察できた。遺物は礫層からも摩耗した縄文土器片が出土している。また、北側の畑地では耕作面直下から白色の砂層が30cm程の厚さで堆積し、耕作土として攪拌されていることが分かった。

③1区3トレンチ (第9・12図、写真図版3・14)

1区3トレンチでは明確な遺構は確認できなかった。主な遺物は、中世の土師質土器:かわらけ(1~3)が出土している。

3トレンチは1区の中で西から四番目に位置する。西から約65mの位置に、幅3m、長さ8mのトレンチを南北方向に設定した。現況道路と南側の一段高い耕作面との比高差は約30cmである。道路下約1.8mまで掘り抜き地山の礫層を検出した。

3トレンチでも1・2トレンチと同様に攪乱範囲が広いことが明らかとなった。土層断面では1・2トレンチほど入り乱れずに、礫層、砂層、砂質土層が堆積し、北側へ礫層が落ち込む様子が観察できた。遺物は北側への落ち込みが、砂質土層により埋まり切った上面でまとまって出土している。また、北側の畑地では耕作面直下から白色の砂層が50cm程の厚さで堆積していることが分かった。

④1区4トレンチ (第10~12図、写真図版3~5・14)

1区4トレンチでは北側への落ち込みの下に東西方向に延びる石列を検出した。主な遺物は、平安時代の土師器:坏(1)、甕(2)、中世の土師質土器:かわらけ(3~8)、陶器:天目茶碗(9)、土器:内耳土器(10)、近世の磁器:碗(11~13)、蓋(14)、土器:内耳土器(15)が出土している。

4トレンチは1区の中で西から三番目に位置する。西から約45mの位置に、幅3.5m、長さ6.5mのトレンチを南北方向に設定した。現況道路と南側の一段高い耕作面との比高差は約60cmである。道路下約1.6mまで掘り抜き地山の礫層を検出した。石列を検出したため、東へ幅3.5m、長さ3m、西へ幅2m、長さ6.5m拡幅した。

4トレンチでも攪乱範囲が広いことが明らかとなった。土層断面では1・2トレンチほど入り乱れずに、礫層、砂層、砂質土層が堆積していた。また、北側へ落ち込むような土層が観察できた。遺物は北側への落ち込みを埋める最上層となる白色砂層の直下から近世の遺物が、その下の砂質土の埋土から中世の遺物、更に下で検出した石列の付近からは平安時代の遺物が出土している。また、北側の畑地では耕作

面直下から白色の砂層が50cm程の厚さで堆積し、耕作土として攪拌されていることが分かった。この白色砂層は明治40年の水害時に堆積したと考えられ、落ち込み埋土の最上層である。北側への落ち込みは砂質土が堆積していくことで浅くはなっていたが、明治40年の段階ではまだ存在していたと考えられる。水害により砂層が厚く堆積したため、現況のように平坦な地形に変化したことが分かった。

1区では西側の1・2トレンチでは強い水の流れにより一気に砂や礫が堆積していることが分かったが、東側の3・4トレンチでは強い流れは確認できず、砂質土がゆっくりと堆積していた。

⑤2区(第13~15図、写真図版5~7・14)

2区では明確な遺構は確認できなかった。主な遺物は、平安時代の土師器: 坏(1~3)、中世の土師質土器: かわらけ(4~8)、皿(10)、陶器: 天目茶碗(9)、片口鉢(14)、土器: 内耳土器(11・12)、播鉢(13)が出土している。

2区は妙善寺境内の北辺にあたる調査区である。妙善寺は大翁寺の北東に位置し、境内には栗原氏の館の鬼門を守護する荒神堂があったとされる。また、妙善寺境内が1町四方の規模の方形区画であることから、大翁寺地点よりも古い時期の栗原氏の方形居館があった可能性も考えられた。2区は方形の区画の北辺を北西の角から東に長さ30m延びた、幅4~5mの細長い調査区である。南側の妙善寺境内(墓域)が高く、北側の地面(水路・道路・北側の畑地)との比高差は約2mである。2区では地山の礫層は道路下約0.8~1.5mで検出した。

2区は水道管や灌漑用水管の敷設がない区間として調査を開始し、旧水道管の攪乱が2区南縁ののびていることが明らかとなったが、比較的広い範囲で平面的に精査をすることができた。しかし、明確な遺構は検出できず、1区に比べて全体的に地山の礫層が浅いところで検出された。地山の礫層は東側が高く西側では低く、北西に下っている様子が分かった。地山面の起伏が旧流路が蛇行する様に変化している様子が見て取れた。遺物は地山の礫層の上を覆う水性堆積の砂礫層の中から中世の土師質土器が近世の陶磁器と混ざって高い位置から出土している。平安時代の土師器は地山の礫層が落ち込み西側の深いところから出土しており、水性堆積の砂礫層の下の砂質土層から出土している。水性堆積層中から出土する遺物が小破片となっているのに対し、砂質土中から出土している平安時代の坏は比較的原形をとどめる形で出土した。水が流れる以前の安定した時期のものと考えられるが、遺構として捉えることはできなかった。

また、土器の皿(10)には溶融物が付着しており、胎土は2次的な被熱が観察できることから、何らかの金属を溶融させる作業に用いられたものと考えられる。皿の出土層は水性堆積の砂礫層中である。

⑥3区(第16~24図、写真図版7~11・14~16・17)

3区では中世の遺物集中区と近世の水路が検出された。主な遺物は、縄文時代の土製品: 耳栓(1)、弥生時代の土器: 壺(2)、中世の土師質土器: かわらけ(3~35)、陶器: 皿(36)、土器: 内耳土器(37・38)、播鉢(39)、近世の磁器: 小碗(40~42)、碗(43~48、53)、小皿(49)、皿(50~52)、鉢(53)、香炉(54)、油壺(55)、瓶(56・57)、仏飯器(58)、陶器: 碗(59~62)、灯明皿(63~65)、乗燭(66)、仏飯器(67・68)、蓋(69)、片口鉢(70・71)、鉢(72)、播鉢(73)、金属製品: 煙管吸口(74・75)、甲州金(76)、古銭(77~79)が出土している。

3区も妙善寺境内の北辺にあたる調査区である。2区の東側に続く幅2~5m、長さ80mの調査区である。南側の妙善寺境内(堂宇域・墓域)と北側の地面(水路・道路・北側の畑地)との比高差は約1

～2mである。3区では地山の礫層は道路下約1～2mで検出した。

3区は現況の道路部分に灌漑用水の本管が東西に敷設されている区間であった。また、3区西側の現況道路の幅が広い部分ではアスファルト舗装の下から埋められた旧水路のコンクリ壁が検出され、水路を付け替え道路を拡幅した時の掘削範囲があることが判明した。3区の西側は2区の東側に引き続き地山の礫層が浅い位置で検出され、中世の土師質土器がまとまって出土している。3区の東側からは近世の水路が検出され、多量の陶磁器類とともに近世の甲州金が出土した。近世の水路では地籍図にみられる水路の分岐箇所が検出された。甲州金が出土したのはこの水路が直角に曲がって分岐したばかりの箇所であった。

3区西側の北側には2区から続く水性堆積の砂礫層が一筋続いており2区同様にこの砂礫層の中からも遺物は出土したが、中世の遺物が集中して出土したのは、この砂礫層の流れより南側の平場状の箇所であった。地山の礫層は西側では浅いところで検出されが、東側では厚く堆積した砂層の下から検出され、2区とは反対に3区では地山の礫層は西から東に下っている様子が分かった。

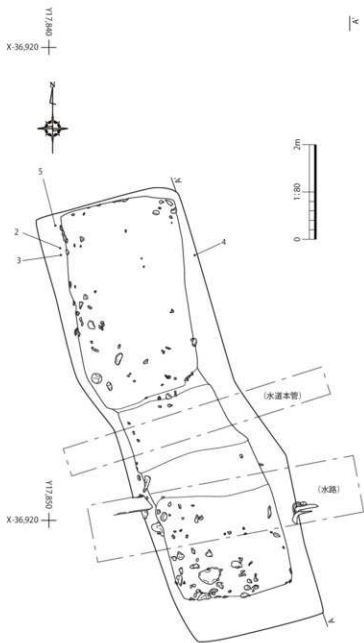
⑦4区（第25～28図、写真図版12～13・16・17）

4区では近世の水路と近代の畑の畝が検出された。主な遺物は、中世の土師質土器：かわらけ（1～5）、土器：播鉢（6）、陶器：常滑甕（7）、土製品：土製円盤（8・9）、近世の磁器：碗（10～12）、皿（13・14）、瓶（15）、陶器：天目茶碗（16）、碗（17～22）、皿（23）、おろし皿（24）、灯明受皿（25～27）、仏飯器（28・29）、播鉢（30）、土師質土器：かわらけ（31・32）、土器：香炉（33～35）、内耳土器（36・37）、土製品：人形類（38）、金属製品：煙管吸口、古銭（40）、石製品：石臼（41～43）、軸受け石（44）が出土している。

4区は海鳥寺境内の北辺にあたる調査区である。海鳥寺は開基を武田信虎の伯母、二世を信玄の伯母と伝え、大翁寺所蔵の栗原氏系図には「法性海道寺入道」「海洞寺法性」の名が記されているような栗原氏縁の寺である。また、境内が1町四方の規模の方形区画であることから、大翁寺地点よりも古い時期の栗原氏の方形居館があった可能性も考えられた。4区は方形の区画の北辺の北西の角から東に長さ40m、幅3mの細長い調査区である。現況では調査区と海鳥寺境内とは20mほど離れており、その間は畑地として耕作されている。南側の畑地が高く、北側の地面（水路・道路・北側の畑地）との比高差は約30cmである。4区では地山の礫層は道路下約2mで検出した。

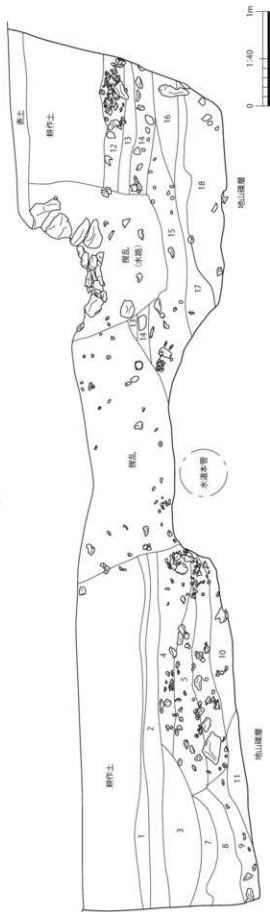
4区は現況道路下に埋設管が敷設されていない区間で、4区を通して現況道路の下から近世の水路が検出された。水路からは多量の陶磁器類や寛永通宝などが出土している。また、4区の西側では近世の水路の上から、近代の石列と畑の畝が検出された。石列と畑の畝は明治40年の水害時に堆積したと考えられる厚い白砂層に覆われていた。また、明治期の石列は近世の水路の石積みの上に継ぎ足したのではなく、列を違えて並べていることが分かった。近世の水路の南側では現況よりも低い位置で道が検出された。現況では水路の北側が道路であるが、近世では水路の南側に道があり、水路が埋まりその上に石列を並べ直した後、新たな水路の北側が道と変えられたことが分かった。また、石臼（43）は近世の水路の石積みに転用された状態で出土した。

4区では地山の礫層は3区の東側と同様に厚い砂層の下から深い位置で検出された。また、土層の観察から現況では一段高い調査区南側の畑地は客土されていることが分かった。近世では水路も道も現況よりも低い位置にあり、客土されている海鳥寺の北側の畑地も当時は現況よりも低かったものと考えられる。

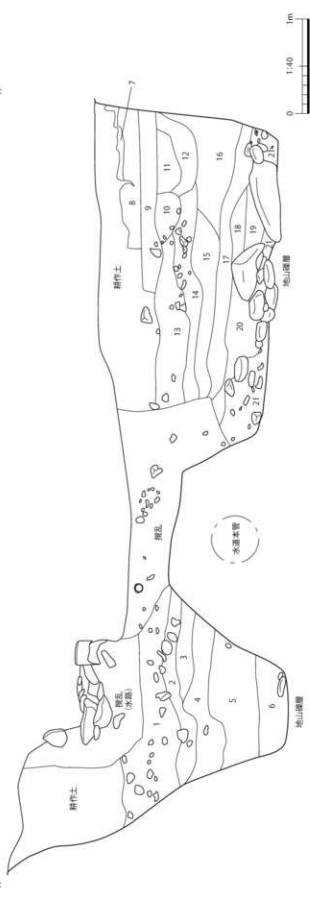
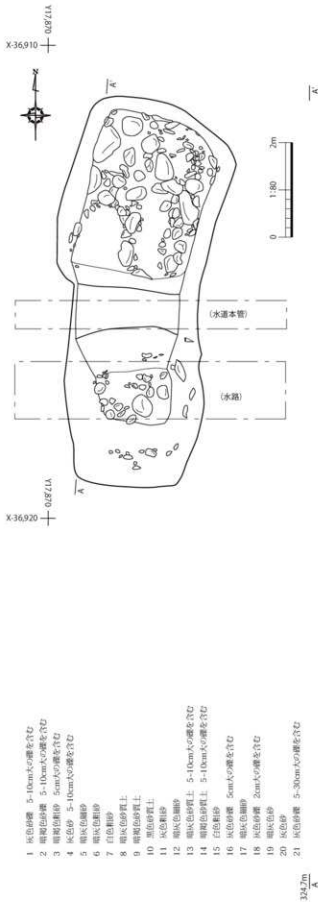


- 1 暗紫色砂質土
- 2 灰色砂質土
- 3 暗灰色砂質土 20cm以上の礫を含む
- 4 灰色砂質土 5-20cm以上の礫を含む
- 5 暗灰色砂質土 5-10cm以上の礫を含む
- 6 灰色砂質土 5-30cm以上の礫を含む
- 7 灰色砂質土
- 8 暗灰色細砂
- 9 暗灰色砂質土 5-10cm以上の礫を含む
- 10 黄灰色砂質土 5-10cm以上の礫を含む
- 11 黄灰色細砂
- 12 暗灰色砂質土 5-30cm以上の礫を含む
- 13 灰色砂
- 14 暗灰色砂質土 5-10cm以上の礫を含む
- 15 灰色砂質土 5cm以上の礫を含む
- 16 暗灰色細砂
- 17 暗灰色砂質土 5cm以上の礫を含む
- 18 灰色細砂 5-10cm以上の礫を含む

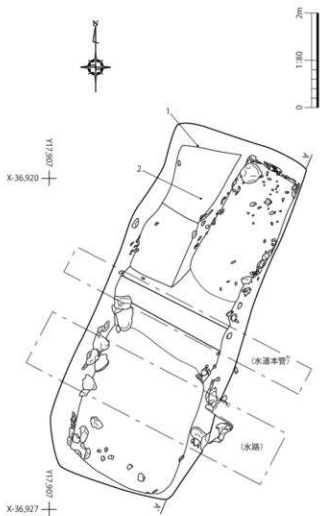
324.5m
N



第7図 1区1トレンチ



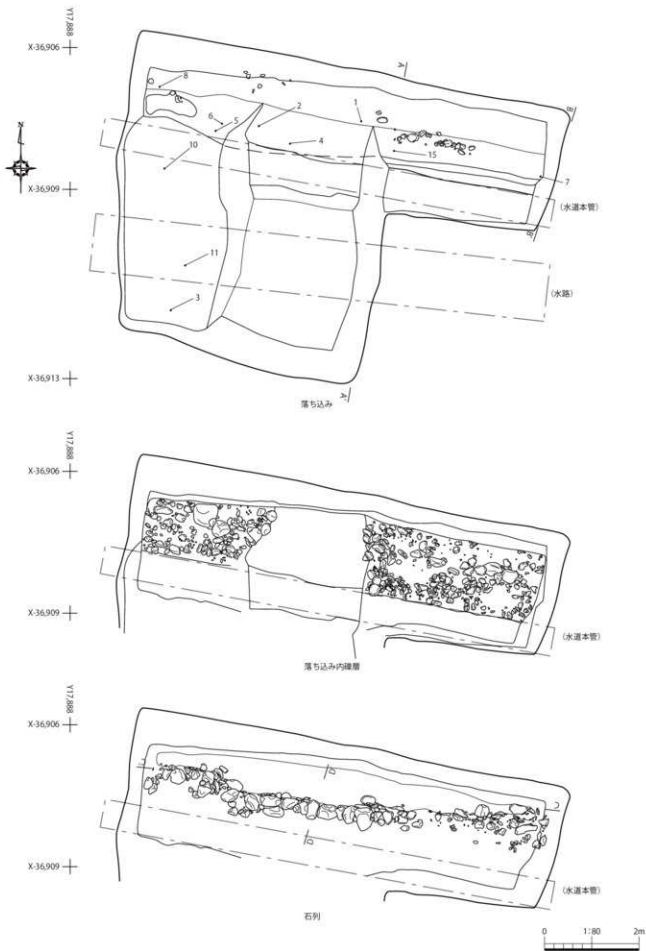
第8図 1区2トレンチ



- 1 白色粘土
- 2 褐色砂質土
- 3 灰色砂質土
- 4 黑色砂質土
- 5 暗灰色砂質土
- 6 灰色砂質土 5-10cm程度の層を含む
- 7 暗灰色砂質土 5-20cm程度の層を含む
- 8 暗灰色砂質土 5-10cm程度の層を含む
- 9 褐色砂質土 5-10cm程度の層を含む
- 10 暗褐色砂質土 5-20cm程度の層を含む
- 11 褐色粘土 5cm程度の層を含む



第9図 1区3トレンチ



第10図 1区4トレンチ(1)

334.2m
A



- 1 灰色砂礫 5-20cm大の礫を含む
- 2 暗灰色砂礫 5-10cm大の礫を含む
- 3 灰色砂礫 10-20cm大の礫を含む
- 4 灰色砂礫 5-10cm大の礫を含む
- 5 灰色砂礫 5-10cm大の礫を含む
- 6 灰色砂礫
- 7 白色粗砂 5-10cm大の礫を含む
- 8 灰色砂礫
- 9 暗灰色砂礫
- 10 白色粗砂
- 11 灰色砂礫

334.2m
B



- 1 白色粗砂
- 2 暗灰色砂礫
- 3 暗灰色砂礫 10cm大の礫を含む
- 4 暗灰色砂礫 10-30cm大の礫を含む
- 5 白色粗砂 10cm大の礫を含む
- 6 灰色砂礫
- 7 暗灰色砂礫
- 8 暗灰色砂礫
- 9 白色粗砂 5cm大の礫を含む
- 10 暗灰色砂礫
- 11 灰色砂礫

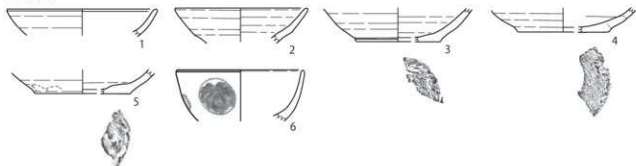
333.4m
C



- 1 灰色砂礫
- 2 地山礫層

第11図 1区4トレンチ (2)

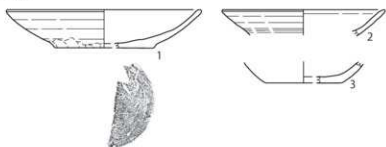
1トレンチ



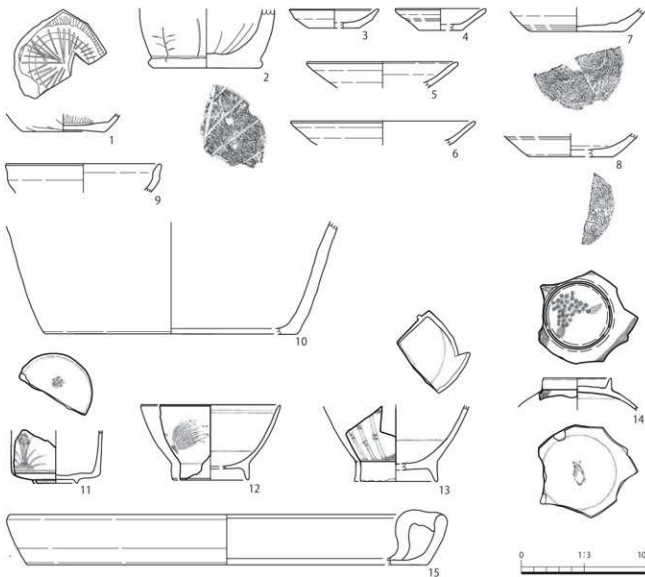
2トレンチ



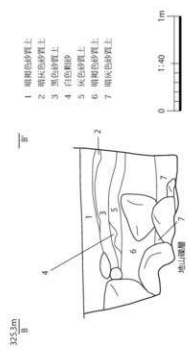
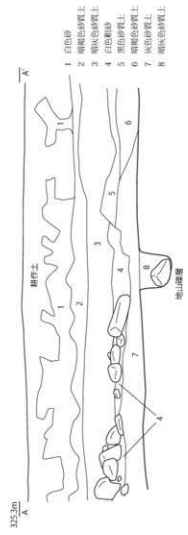
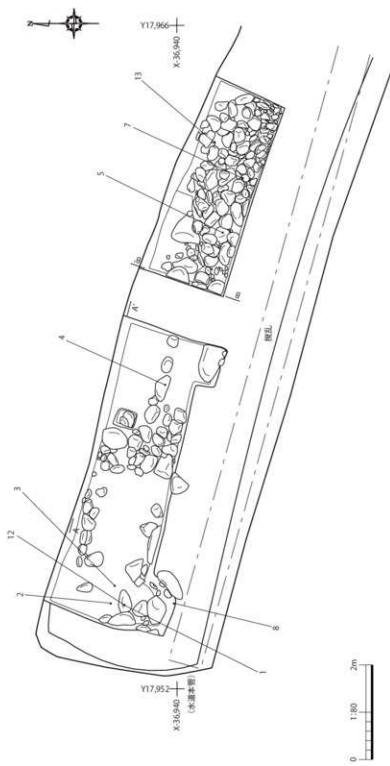
3トレンチ



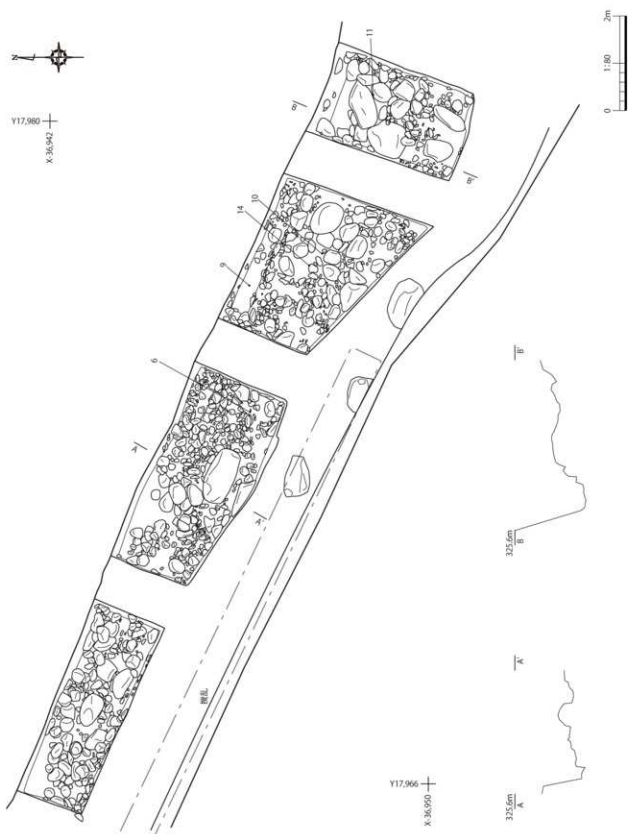
4トレンチ



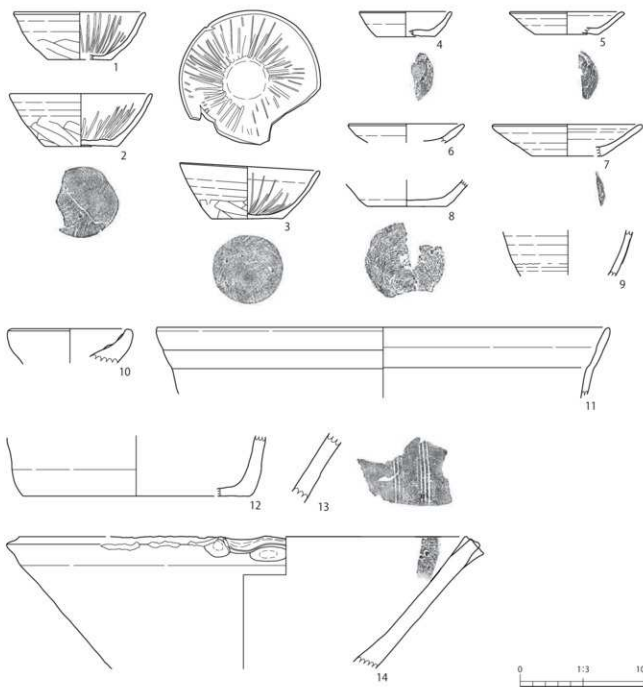
第12図 出土遺物 1区1~4トレンチ



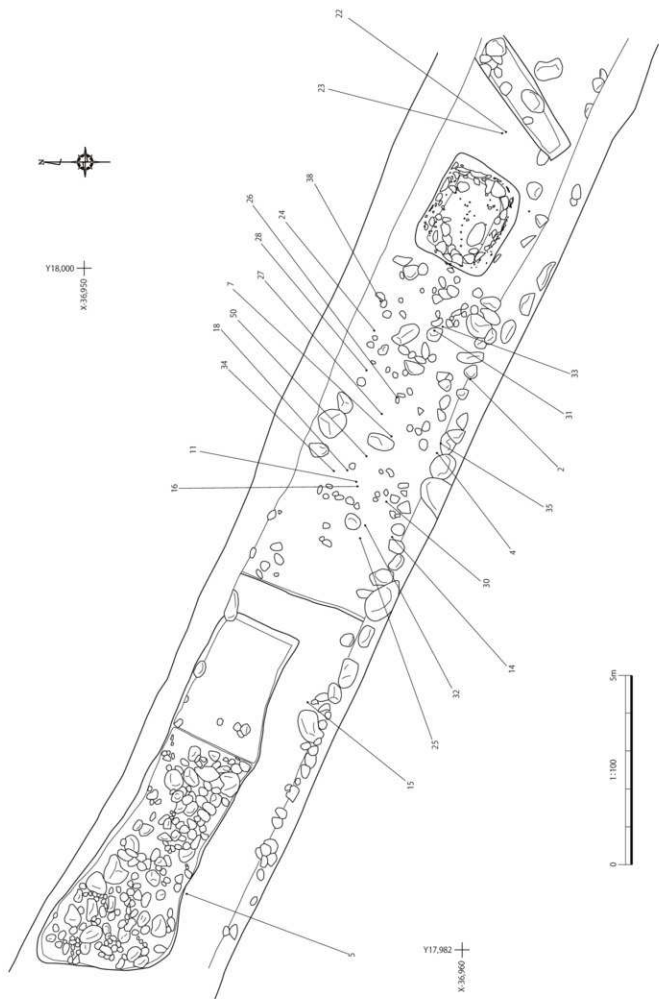
第13图 2区(1)



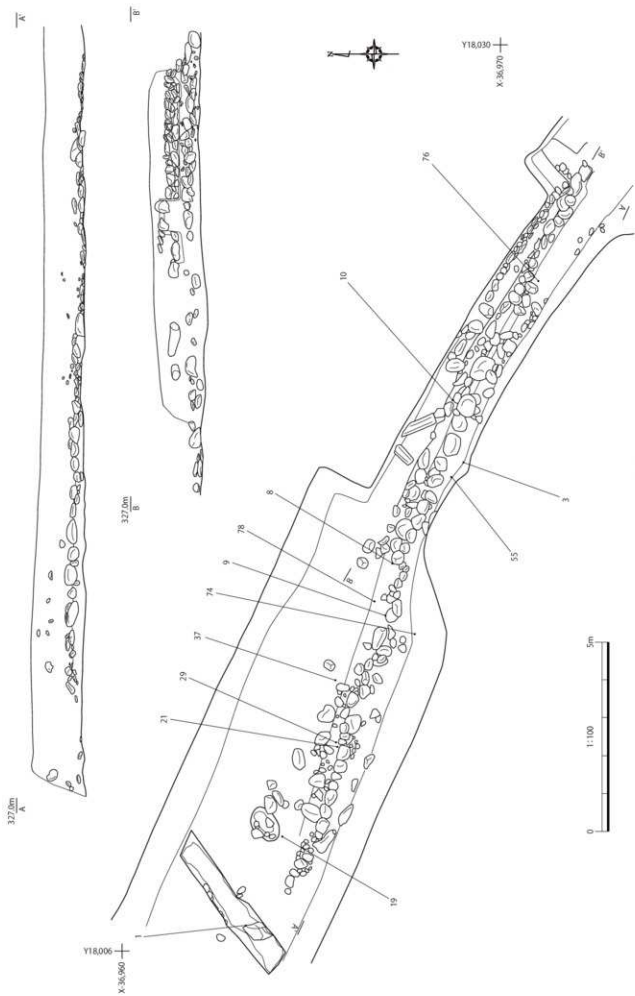
第14图 2区(2)



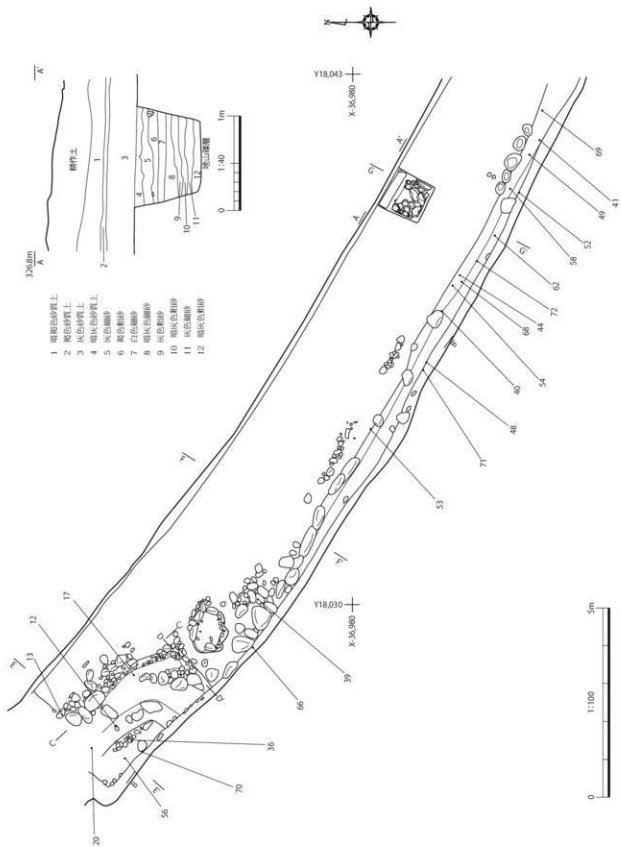
第15图 出土遗物 2区



第16图 3区(1)



第17图 3区 (2)



第18图 3区(3)

336.5m
H



336.5m
C

C



336.5m
D

D



336.5m
E

E



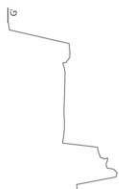
336.5m
F

F

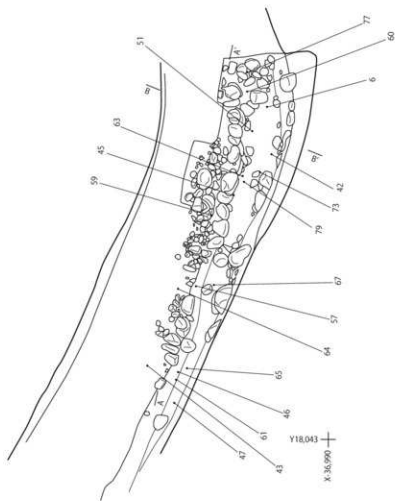


336.5m
G

G



Y18,053
X-36,980



336.7m
A

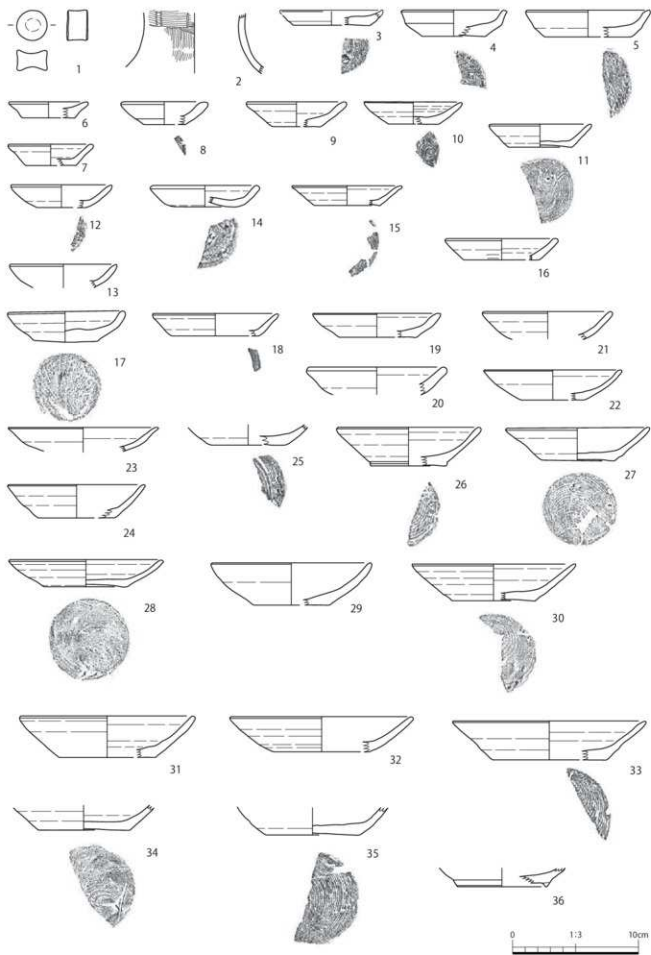


327.0m
B

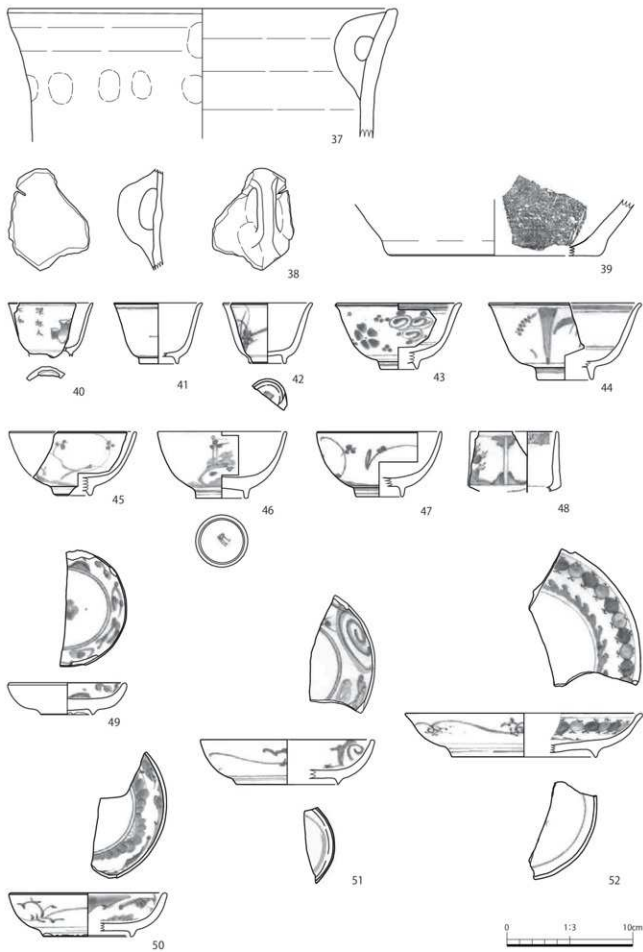


0 1:100 5m

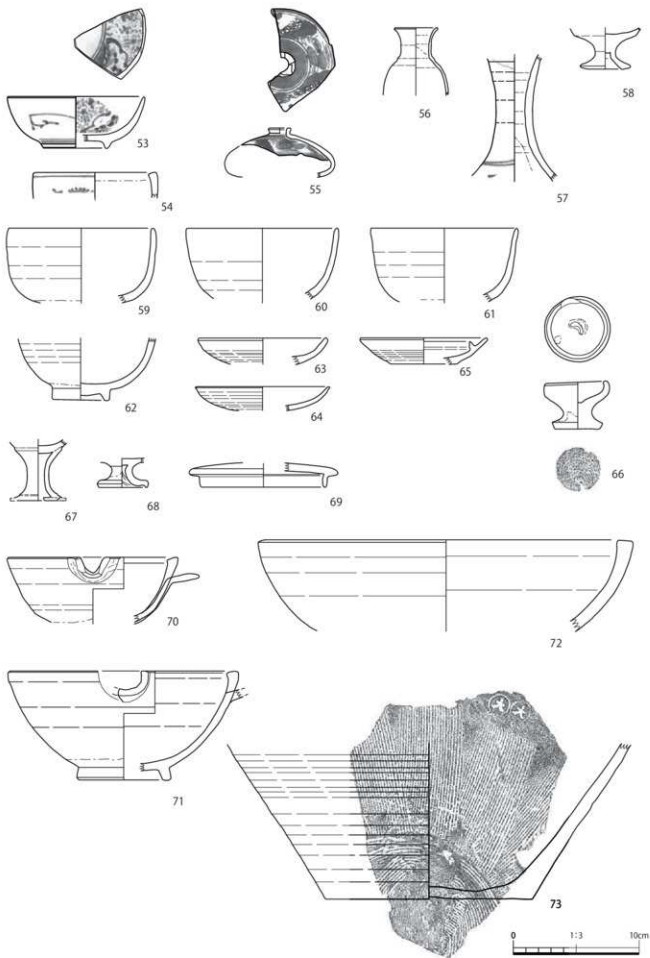
第20图 3区(5)



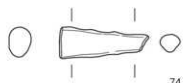
第21图 出土遗物 3区(1)



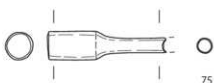
第22图 出土遗物 3区(2)



第 23 図 出土遺物 3 区 (3)



74



75



76



77



78



79



第24图 出土遗物 3区(4)

377.2m
A



377.2m
B



377.2m
C

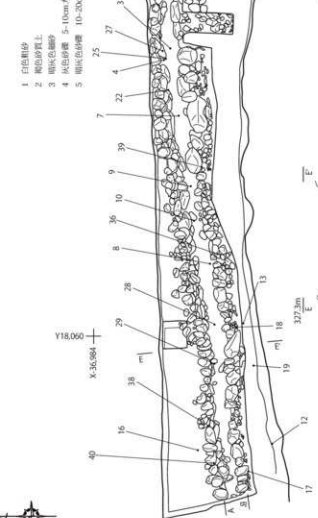


- 1 白色粗砂
- 2 褐色砂質土
- 3 褐色細砂
- 4 褐色砂礫 5-10cm 以下の礫を含む
- 5 褐色砂礫 10-20cm 以下の礫を含む

377.2m
C



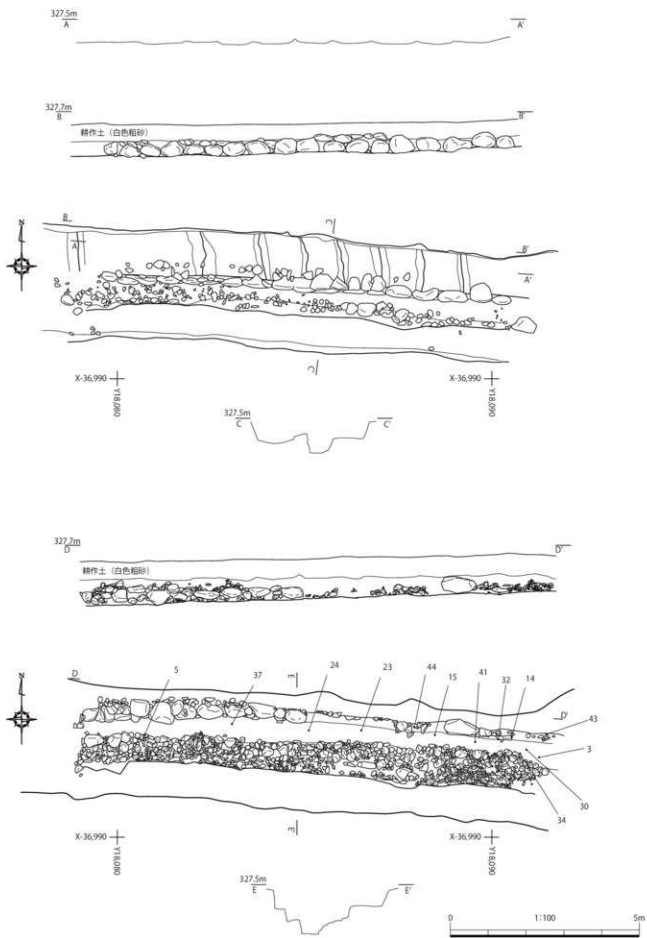
Y18,060
X:35,984



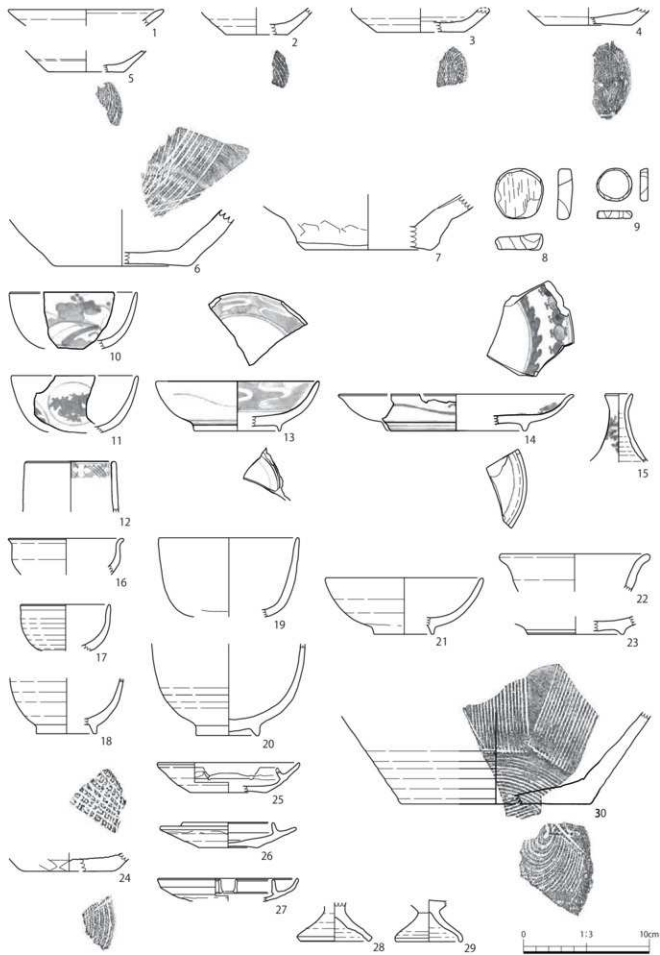
Y18,070
X:35,990



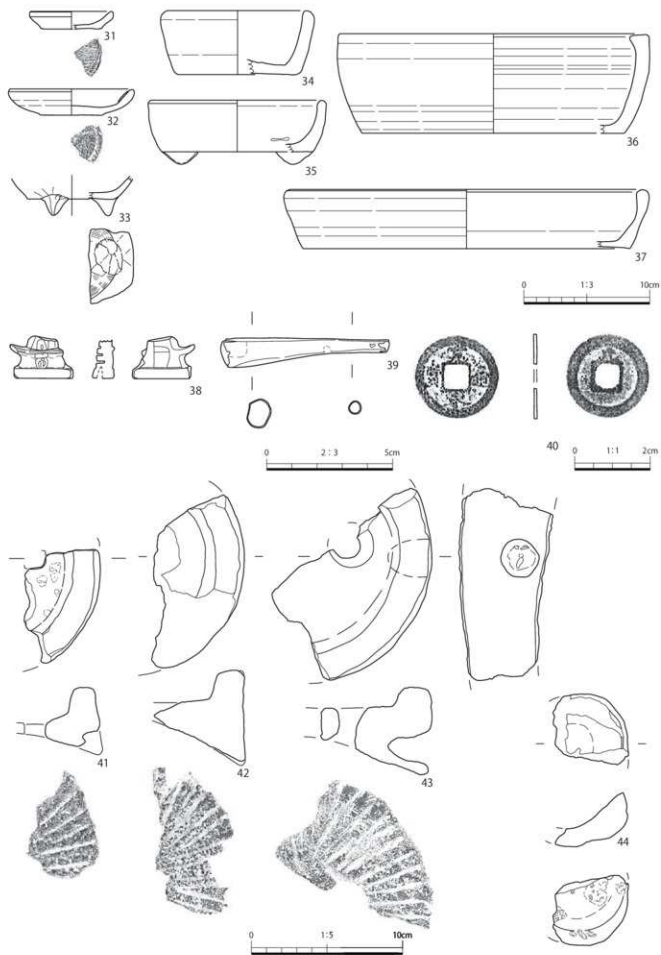
第25図 4区(1)



第 26 图 4 区 (2)



第 27 图 出土遗物 4 区 (1)



第28图 出土遗物 4区(2)

表1 遺物観測表

遺構名 番号	区 番号	写真図 番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	部位	色調	構成	出土	備考
1K11レ	12-	14	土師瓦土器	かわ55f	(12.0)	—	<2.1>	口縁1/4	に白、黄緑10YR7/3	良好	細砂を含む、赤色胎、長石・石英、 黄色雲母	外・内面:かわ5f
1K11レ	12-	14	土師瓦土器	かわ55f	(10.4)	—	<2.7>	口縁1/4	に白、黄2.5YR7/4	良好	細砂を含む、赤色胎、長石・石英、 黄色雲母	外・内面:かわ5f
1K11レ	12-	14	土師瓦土器	かわ55f	—	(6.6)	<2.6>	体部1/4～底部1/4	に白、黄2.5YR7/4	良好	密、赤色胎、黒色胎、長石・石英	外・内面:かわ5f
1K11レ	12-	14	土師瓦土器	かわ55f	—	(7.2)	<1.9>	体部1/4～底部1/4	に白、黄2.5YR5/3	良好	細砂を含む、赤色胎、長石・石英	外面:かわ5f、内面:かわ5fの羅行着、 底面:赤切の肌
1K11レ	12-	14	土師瓦土器	かわ55f	—	(7.6)	<1.9>	底部1/4	黄5YR7/6	良好	密、赤色胎、長石・石英・黄色雲母	外・内面:かわ5f、底面:赤切の 肌
1K11レ	12-	14	磁器	碗	(10.2)	—	<4.1>	口縁1/3	灰白5GY1	良好	密	発付、細砂質、コンニャク型、18世紀代
1K21レ	12-	14	土師瓦土器	かわ55f	—	(4.4)	<1.5>	底部1/6	に白、黄2.5YR7/4	良好	細砂を含む、長石	外・内面:かわ5f
1K31レ	12-	14	土師瓦土器	かわ55f	(15.4)	(7.0)	3.0	口縁1/4～底部1/2	に白、黄2.5YR7/4	良好	密、赤色胎、長石・石英・黄色雲母	外・内面:かわ5f、底面:赤切の肌
1K31レ	12-	14	土師瓦土器	かわ55f	(13.0)	—	<2.0>	口縁1/6	に白、黄2.5YR7/3	やや 不良	密、赤色胎、長石・石英・黄色雲母	外・内面:かわ5f、口縁付近に付着
1K31レ	12-	14	土師瓦土器	かわ55f	—	(6.0)	<1.7>	体部1/3～底部	黄5YR7/6	やや 不良	密、赤色胎、長石・石英	全体に羅粒している、赤切の肌確認できず
1K41レ	12-	14	土師器	坏	—	(6.4)	<1.4>	体部～底部	黄5YR6/6	良好	外面:かわ5f、内面:黄2.5YR7/4 <資料>底面	
1K41レ	12-	14	土師器	壺	—	(8.4)	<4.7>	体部1/3～底部	に白、黄2.5YR6/3	良好	外面:一部に木炭質、内面:黄2.5YR7/4 平安丸11～12世紀前半	
1K41レ	12-	14	土師瓦土器	かわ55f	(7.1)	(4.0)	1.5	口縁小～底部1/8	に白、黄2.5YR6/4	良好	外・内面:かわ5f、内面:黒色胎(XXc?)、 赤切の肌(部分)に残る、若干の赤さ、 不明瞭	
1K41レ	12-	14	土師瓦土器	かわ55f	(7.2)	<3.1>	1.7	口縁小(1/4～底部1/8)	に白、黄2.5YR7/4	良好	外・内面:かわ5f、底面:残存少ない、 赤切の肌残存は 不明瞭	
1K41レ	12-	14	土師瓦土器	かわ55f	(12.0)	—	<2.1>	口縁1/4	黄緑10YR8/3	良好	密、赤色胎、長石・石英	外・内面:かわ5f
1K41レ	12-	14	土師瓦土器	かわ55f	(14.0)	—	<1.8>	口縁1/8	に白、黄2.5YR7/4	良好	細砂を含む、赤色胎、長石・石英	外・内面:かわ5f
1K41レ	12-	14	土師瓦土器	かわ55f	—	(7.3)	<1.9>	底部1/2	に白、黄2.5YR7/3	良好	細砂を含む、赤色胎、長石・石英	外・内面:かわ5f、底面:赤切の肌
1K41レ	12-	14	土師瓦土器	かわ55f	—	(6.6)	<1.9>	底部1/4	に白、黄2.5YR7/4	良好	細砂を含む、赤色胎、長石・石英	外・内面:かわ5f、底面:赤切の肌
1K41レ	12-	14	陶器	灰白蓋碗	(12.4)	—	<2.3>	口縁1/10	黄2.5YR4/3	良好	密 (色調は灰白SN?)	外・内面:黄緑、15世紀代
1K41レ	12-	14	土器	内耳土器	—	(20.0)	<9.0>	体部小～底部小	外面:黄10Y2/1 内面:に白、黄緑10YR6/3	良好	細砂を含む、長石・石英	外面:かわ5f、X付着、底面:少し剥がれか?<資料>
1K41レ	4-11	14	磁器	碗	—	(7.0)	<4.2>	体部～底部 1/3	灰白SN/	良好	密	形部、外周:かきつばた、見込:玉舟足、 コンニャク型、発付、18世紀末～19世紀
1K41レ	12-	14	磁器	碗	(11.0)	<6.0>	6.0	口縁～底部 1/4	明緑灰10GY8/1～灰白SN/	良好	密	肥田粉付、18世紀末～19世紀、 灰黒陶
1K41レ	12-	14	磁器	碗	—	(6.6)	<6.0>	体部～底部 1/4	灰白SN/	良好	密	肥田粉付、18世紀末～19世紀、 灰黒陶
1K41レ	12-	14	磁器	蓋	—	5.4	<2.5>	つば部～体部1/3	灰白SN/	良好	密	肥田粉?19世紀

透視名 番号	図 番号	享真源 成書号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	部位	色調	傷痕	胎土	備考
1区中ノ 4-15	2区	14	土器	内耳土器	(34.6)	(32.0)	<4.0>	口縁～底部 1/10 口縁～底部 1/10	外底:ニシハ黄緑10YR5/4 内底:ニシハ黄緑2YR7/4	良好	細砂を含む 赤色胎・長石・石英	外面:口付部 灰付着 内面:回転付?
2区	15-1	14	土器器	杯	(10.4)	(5.0)	3.8	口縁～底部	明赤黄緑5YR6/6	良好	赤色胎	外面:口付? 子? 内面:内面文 底面:口付? 黄緑配代
2区	15-2	14	土器器	杯	(11.2)	(5.8)	4.2	口縁1/4～底部	明赤黄緑6/6	良好	赤色胎	外面:口付? 子? 内面:内面文 底面:口付? 黄緑配代
2区	15-3	14	土器器	杯	11.0	5.6	4.2	口縁3/4～底部	外底:暗赤黄緑6 内底:ニシハ黄緑10YR7/4	良好	赤色胎	外面:口付? 子? 内面:内面文 底面:口付? 黄緑配代
2区	15-4	14	土器質土器	542557	(7.0)	(4.6)	2.0	口縁1/4～底部1/4	に赤・暗赤5YR7/4	良好	細砂を含む 赤色胎・白色胎	外・内面:口付? 子? 底面:口付? 黄緑配代
2区	15-5	14	土器質土器	542557	(9.0)	(5.0)	2.8	口縁1/8～底部1/4	に赤・暗赤5YR7/4	良好	赤色胎・長石・金色雲母	外・内面:口付? 子? 底面:回転黄緑の肌
2区	15-6	14	土器質土器	542557	(9.0)	—	<1.5>	口縁1/5～底部	に赤・黄緑10YR7/4	良好	赤色胎 白色胎・黒色胎・長石・石英	外・内面:口付? 子? 底面:口付? 黄緑配代
2区	15-7	14	土器質土器	542557	(11.8)	(5.6)	(2.5)	口縁1/8～底部1/5	に赤・暗赤5YR7/4	良好	赤色胎・長石・金色雲母	外・内面:口付? 子? 底面:回転黄緑の肌
2区	15-8	14	土器質土器	542557	—	6.3	(1.7)	体部1/8～底部1/2	暗赤5Y7/6	良好	赤色胎・長石・金色雲母	外・内面:口付? 子? 底面:赤色胎
2区	15-9	14	陶器	天目茶碗	—	—	(3.5)	破片	灰白5Y8/2	良好	金色雲母	外・内面:口付? 黄緑
2区	15-10	14	土器質土器	重	(9.2)	—	<3.7>	口縁小	黄緑黄10YR6/3	良好	赤石	外・内面:口付? 子? 胎部粉付着
2区	15-11	14	土器	内耳土器	(36.0)	—	<5.6>	口縁小	に赤・暗赤5YR6/4	良好	赤色胎・白色胎・長石・石英・ 黒色雲母	外・内面:口付?
2区	15-12	14	土器	内耳土器	—	(18.0)	<4.8>	底部小	暗赤5YR7/6	良好	赤石	外・内面:口付?
2区	15-13	14	土器	罐鉢	<5.5>	—	—	体部破片	に赤・暗赤5YR6/4	良好	赤	外・内面:口付?
2区	15-14	14	陶器	片口鉢	(35.6)	—	(16.4)	口縁1/8～底部1/8	に赤・赤黄10R5/4	良好	赤石	外・内面:口付? 内面黄緑しよへへへ部分多し、黄緑肌 小
2区	21-1	14	土製品(漆文)	耳栓	2.4	—	1.6	—	明黄緑10YR7/6	良好	赤	外・内面:口付?
2区	21-2	14	赤土土器	重	—	—	<4.8>	胴部	に赤・暗赤5YR6/4	良好	細砂を含む 白色胎	外面:口付 胴部 髹状文 外・内面 赤彩小?
2区	21-3	14	土器質土器	542557	(8.1)	(6.0)	(1.3)	体部～底部	暗赤5YR6/6	良好	細砂を含む 白色胎	外・内面:口付? 子? 底面:口付? 赤色胎黄緑小?
2区	21-4	14	土器質土器	542557	(7.9)	(5.0)	2.1	口縁1/4～底部1/4	に赤・暗赤5YR6/4	良好	粗砂を含む 赤色胎・白色胎・長石・ 石英・金色雲母	外・内面:口付? 子? 底面:静止赤色の肌
2区	21-5	14	土器質土器	542557	(9.6)	(7.0)	2.2	口縁～底部	に赤・暗赤5YR6/4	良好	細砂を含む 白色胎	外・内面:口付? 子? 底面:静止赤色の肌
2区	21-6	14	土器質土器	542557	(6.2)	(4.2)	1.3	口縁～底部	に赤・暗赤5YR6/4	良好	粗砂を含む 白色胎	外・内面:口付? 子? 全体に髹状文
2区	21-7	14	土器質土器	542557	(6.6)	(4.0)	<1.7>	口縁小～底部小	暗赤5YR7/6	良好	赤	外・内面:口付?
2区	21-8	14	土器質土器	542557	(6.4)	(3.4)	1.8	口縁～底部	に赤・暗赤5YR7/4	良好	赤	外・内面:口付? 子? 内面:灰付着 底面:回転黄緑の肌 黄?
2区	21-9	14	土器質土器	542557	(7.8)	(3.8)	<2.0>	口縁1/5～底部1/4	暗赤5YR7/6	良好	赤色胎・長石・金色雲母	外・内面:口付?

※ (備考)は検査元、<数量>は取付数

道標名 番号	区 番号	写真区 区番号	種別	種類	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	部位	色調	構成	附土	備考
3K	21-10	14	土師質土器	5-4551	(7.8)	(4.0)	(1.8)	口縁～底部	紺S10/6	良好	赤色胎・長石・金色薬料	外・内面:20ナナ 底面:凹貼糸切の瓦 口縁少々スス付着
3K	21-11	14	土師質土器	5-4551	(8.0)	(5.0)	1.8	口縁～底部	にぶ,紺7.5YR6/4	良好	細砂粒含む・赤色胎・白色胎・白色胎	外・内面:20ナナ 底面:凹貼糸切の瓦
3K	21-12	14	土師質土器	5-4551	(8.0)	(4.0)	1.8	口縁～底部	にぶ,紺7.5YR6/4	良好	細砂粒含む・赤色胎・白色胎・黒色胎	外・内面:20ナナ 底面:静土糸切の瓦 口縁スス付着
3K	21-13	14	土師質土器	5-4551	(8.0)	—	<1.9>	口縁～底部	にぶ,紺7.5YR6/4	良好	細砂粒含む・赤色胎・白色胎	外・内面:20ナナ 口縁スス付着
3K	21-14	14	土師質土器	5-4551	(8.2)	(4.4)	(1.7)	口縁～底部1/4	にぶ,紺7.5YR6/4	良好	細砂粒含む・赤色胎・白色胎	外・内面:20ナナ 底面:凹貼糸切の瓦ナナナナ一部付着
3K	21-15	14	土師質土器	5-4551	(8.6)	(5.2)	1.6	口縁～底部	にぶ,紺7.5YR6/4	良好	赤色胎・白色胎	外・内面:20ナナ 底面:凹貼糸切の瓦
3K	21-16	14	土師質土器	5-4551	(8.6)	(6.0)	<1.7>	口縁小～底部小	真黄紺10YR6/4	良好	赤 緑粒	外・内面:20ナナ
3K	21-17	15	土師質土器	5-4551	9.1	5.2	2.4	口縁1/4～底部先端	にぶ,紺7.5YR6/4	良好	細砂粒含む・長石・石英・金色薬料	外・内面:20ナナ 底面:凹貼糸切の瓦 口縁高全国前にスス付着
3K	21-18	15	土師質土器	5-4551	(10.0)	(7.0)	1.8	口縁～底部	にぶ,紺7.5YR7/4	良好	細砂粒含む・赤色胎・白色胎	外・内面:20ナナ 底面:凹貼糸切の瓦
3K	21-19	15	土師質土器	5-4551	(10.0)	(6.0)	(2.0)	口縁1/6～底部1/4	紺7.5YR7/6	良好	赤色胎・長石・金色薬料	外・内面:20ナナ
3K	21-20	15	土師質土器	5-4551	(10.8)	—	<2.2>	口縁1/8	紺7.5YR7/6	良好	赤 緑粒	外・内面:20ナナ
3K	21-21	15	土師質土器	5-4551	(10.8)	—	<2.2>	口縁1/5～底部小	にぶ,紺7.5YR7/4	良好	赤色胎・白色胎・長石・石英・金色薬料	外・内面:20ナナ 口縁衝打て赤じいでいる
3K	21-22	15	土師質土器	5-4551	(10.8)	(5.0)	<2.4>	口縁1/5～底部1/5	紺7.5YR7/6	良好	赤色胎・長石	外・内面:20ナナ
3K	21-23	15	土師質土器	5-4551	(11.8)	—	<1.9>	口縁～底部1/4	紺7.5YR7/6	良好	細砂粒含む・赤色胎・金色薬料	外・内面:20ナナ 軽装瓦の外面に二つあり 内面には大きい傷ナナ
3K	21-24	15	土師質土器	5-4551	(10.0)	(6.0)	2.7	口縁1/5～底部小	赤黒紺5YR8/3	良好	細砂粒含む・赤色胎	外・内面:20ナナ 全体に黒塗 底面の糸切の瓦縁部でナナ
3K	21-25	15	土師質土器	5-4551	—	(6.0)	<1.6>	底部～底部	にぶ,紺7.5YR6/4	良好	細砂粒含む・赤色胎・白色胎	外・内面:20ナナ 底面:凹貼糸切の瓦
3K	21-26	15	土師質土器	5-4551	(11.2)	(6.0)	(3.1)	口縁1/4～底部先端	紺7.5YR7/6	良好	細砂粒含む・赤色胎・白色胎	外・内面:20ナナ 底面:凹貼糸切の瓦 口縁スス付着
3K	21-27	15	土師質土器	5-4551	11.2	6.0	2.6	口縁1/4～底部先端	紺7.5YR7/6	良好	細砂粒含む・赤色胎・長石	外・内面:20ナナ 底面:凹貼糸切の瓦 口縁周囲にスス付着→厚層黒じで閉目
3K	21-28	15	土師質土器	5-4551	(12.0)	6.6	(2.2)	口縁1/4～底部小	紺7.5YR6/6	良好	細砂粒含む・赤色胎・白色胎・金色胎	外・内面:20ナナ 底面:凹貼糸切の瓦
3K	21-29	15	土師質土器	5-4551	(12.5)	(6.0)	<3.3>	口縁小～底部小	にぶ,紺7.5YR7/4	良好	粗砂粒含む・赤色胎・白色胎・石英・金色薬料	外・内面:20ナナ 底面:凹貼糸切の瓦
3K	21-30	15	土師質土器	5-4551	(13.0)	(6.6)	2.9	口縁～底部	にぶ,紺7.5YR7/4	良好	細砂粒含む・赤色胎・白色胎	外・内面:20ナナ 底面:凹貼糸切の瓦
3K	21-31	15	土師質土器	5-4551	(13.0)	(7.6)	<3.3>	口縁～底部小	明黄紺10YR7/6	良好	赤色胎・長石	外・内面:20ナナ 既存では糸切の瓦のみならず
3K	21-32	15	土師質土器	5-4551	(14.4)	(7.6)	<2.8>	口縁1/4～底部小	真黄紺7.5YR6/6	良好	赤色胎・長石・石英	外・内面:20ナナ
3K	21-33	15	土師質土器	5-4551	(15.2)	(9.0)	<3.1>	口縁小～底部小	紺7.5YR7/6	良好	赤色胎・長石	外・内面:20ナナ 底面:凹貼糸切の瓦

透姓名	透番号	字原図透番号	種別	器種	口径(長)	口径(幅)	器高(厚)	器重(重)	部位	色調	構成	胎土	備考
3区	21-34	15	土師質土器	小4&5片	—	(7.2)	<2.0		体部~底部	こぶし、暗2.5N87/4	良好	赤色灰、白色灰・長石	外・内面:こぶし片 底面:暗赤色の灰
3区	21-35	15	土師質土器	小4&5片	—	(7.4)	2.2		体部小~底部1/2	暗7.5N6.6	良好	暗赤灰含む 赤色灰、白色灰、長石・石英・赤色炭屑	外・内面:こぶし片 胴部:暗赤色の灰
3区	21-36	15	陶器	皿	—	(7.0)	<1.5>		体部小~底部1/6 胴部:文字ノミ裏5V7.3	新土:灰白0Y82/2	良好	大黒期 灰赤丸土	16世紀代
3区	22-37	15	土器	内耳土器	(30.8)	—	<10.3>		口縁~体部	こぶし、暗2.5N86/4	良好	暗赤灰含む 白色灰	外・内面:こぶし片 胴部:外・内面 灰及び糠片層
3区	22-38	15	土器	内耳土器	—	—	<8.1>		肥子部	暗7.5N6.6	良好	外・内面:こぶし片	
3区	22-39	15	土器	頸鉢	—	(17.0)	<4.5>		底部小	明赤期の5/6	良好	暗赤灰含む	
3区	22-40	15	磁器	小碗	(6.6)	—	<4.3>		口縁~体部1/4	灰白2.5N8.1	良好	灰行 瀬戸・美濃	
3区	22-41	15	磁器	小碗	(7.0)	(3.0)	4.9		口縁~底部1/4	灰白2.5N8.1	良好	外面:灰行 透明釉 瀬戸・美濃?	
3区	22-42	15	磁器	小碗	(7.0)	(2.8)	(4.8)		口縁1/2~底部1/2	灰白2.5N8.1	良好	灰行 草花文 瀬戸・美濃	
3区	22-43	15	磁器	碗	(10.0)	(3.0)	5.3		口縁1/4~底部1/4	灰白2.5N8.1	良好	外・内面:透明釉 灰行 濁色の釉 肥前	
3区	22-44	15	磁器	碗	(12.2)	(4.4)	6.1		口縁1/6~底部1/12	灰白2.5N8.1	良好	外面:透明釉 灰行 内面:透明釉 濁釉 濁足の釉 瀬戸・美濃	
3区	22-45	15	磁器	碗	(10.0)	(3.0)	<5.1>		口縁1/4~底部	灰白5N8.1	良好	灰行 雪輪梅樹文 <5>わん小碗 肥前 18世紀後半	
3区	22-46	15	磁器	碗	(10.2)	4.2	5.3		口縁1/8~底部100%	灰白5N8.1	良好	外面:灰行 雪輪梅樹文 底面:灰行 文字? <5>わん小碗 肥前 18世紀後半	
3区	22-47	15	磁器	碗	(10.0)	(3.8)	5.3		口縁1/3~底部1/4	灰白10N8.1	良好	外面:灰行 雪輪梅樹文 <5>わん小碗 肥前 18世紀後半	
3区	22-48	15	磁器	碗	(6.9)	—	<4.8>		口縁小~体部小	灰白5N8.1	良好	灰行 肥前 肥前 18世紀後半~19世紀	
3区	22-49	15	磁器	小皿	(8.2)	(4.2)	(2.0)		口縁1/2~底部1/2	灰白5N8.1	良好	透明釉 灰行 肥前 灰行 雪輪梅樹文 見立み玉存在? ニーヤケ型 肥前	
3区	22-50	15	磁器	皿	(12.4)	(7.0)	(3.3)		口縁1/4~底部1/4	灰白2.5N8.1	良好	透明釉 灰行 外田草草文 肥前 18世紀後半	
3区	22-51	15	磁器	皿	(13.8)	(6.0)	3.6		口縁1/4~底部1/4	灰白5N8/	良好	灰行 肥前 18~19世紀	
3区	22-52	15	磁器	皿	(18.8)	(11.4)	3.5		口縁1/4~底部1/4	灰白5N8.1	良好	灰行 肥前 18~19世紀	
3区	23-53	15	磁器	鉢	(10.8)	(5.2)	(4.1)		口縁1/4~底部1/4	灰白2.5N8.1	良好	口縁 外田草草文 肥前 18~19世紀	
3区	23-54	15	磁器	香炉	(9.8)	—	2.1		口縁1/4~体部小	灰白5N8/	良好	外面:灰行 濁釉 内田:濁文 内面:口縁少々 濁釉 肥前	
3区	23-55	15	磁器	胡瓶	(1.6)	—	<3.9>		口縁~体部1/2	灰白5N8/	良好	外田:透明釉 内田:無釉 灰行 肥前?	
3区	23-56	15	磁器	瓶	(3.4)	—	<5.4>		口縁~体部	灰白5N8.1	良好	外田:透明釉 瀬戸・美濃	
3区	23-57	15	磁器	瓶	—	—	<10.1>		胴部	新土:灰白10Y82/1 輪調:灰白10Y88.1~2.5L 暗5N86.4	良好	外田:透明釉 瀬戸・美濃	

※ (箇所) は既元部、<箇条>は>既行部

道標名 番号	区 番号	寄居区 区番号	種別	形種	口径 (長)	底径 (幅)	高さ (厚)	器 種	部位	色調	構成	胎土	備考
3区 23-58	15		磁器	仏瓶器	—	(4.0)	<3.3>		体部~底部1/2	灰白系/	良好密		02知 瀬戸・美濃?
3区 23-59	15		陶器	碗	(11.0)	—	<6.0>		口縁小~体部小	新土:灰白系Y8/1 胎土:黄緑系Y5/4	良好密		02知 灰輪
3区 23-60	15		陶器	碗	(12.0)	—	(5.6)		口縁1/4~体部小	新土:灰白系Y7/1 胎土:黄緑系Y5/4	良好密		02知 灰輪 口縁小?7輪
3区 23-61	15		陶器	碗	(11.0)	—	<5.9>		口縁1/4~体部小	新土:灰白系Y8/2 胎土:オリーブ緑系Y4/3	良好密		02知 灰輪 口縁小?7輪
3区 23-62	15		陶器	碗	—	4.4	<4.9>		体部小~底部	新土:灰白系Y8/2 胎土:増子~オリーブY4/3	良好	細砂粒含む、白色灰	02知 灰輪 取出高台
3区 23-63	15		陶器	灯明皿	(10.0)	—	<2.1>		口縁部	新土:黄緑系Y8/1 胎土:上赤系Y8/4	良好密		外・内面:02知 ~02知? 灰輪
3区 23-64	15		陶器	灯明皿	(10.0)	—	<1.9>		口縁1/5	新土:黄緑系Y7.5Y7/1 胎土:増子Y8/4	良好密		外・内面:02知 ~02知? 灰輪
3区 23-65	15		陶器	灯明受皿	(10.0)	(5.2)	<2.1>		口縁~底部1/8	新土:灰白系Y8/1 胎土:増子Y5/6	良好密		外・内面:02知 ~02知? 灰輪
3区 23-66	15		陶器	茶碗	4.9	3.5	3.7		完整	新土:灰白系Y8/1 胎土:増子Y8/2.3	良好密		02知 底面:同底面?の灰 灰輪
3区 23-67	15		陶器	仏瓶器?	—	—	<4.9>		胴部~底部	新土:灰白系Y8/1 胎土:増子~オリーブY3/3	良好密		02知 灰輪
3区 23-68	15		陶器	仏瓶器	—	(3.8)	<2.3>		胴部~底部	新土:灰白系Y8/1 胎土:増子Y7/2	良好密		外側:上部~灰輪 内面:灰輪
3区 23-69	15		陶器	蓋	(11.8)	(10.0)	1.9		口縁1/4~底部1/4	新土:黄緑系Y8/2.3 胎土:黄緑系Y8/4	良好密		02知 蓋輪上面灰輪
3区 23-70	15		陶器	片口鉢	(13.0)	—	5.3		口縁1/5~体部	新土:灰白系Y8/2 胎土:増子Y8/7/6	良好密		02知 外・内面:灰輪 透明輪
3区 23-71	15		陶器	片口鉢	(18.0)	(7.2)	8.7		口縁~底部	新土:上赤系Y8/2 胎土:上赤系Y8/4	良好密		02知 外・内面:灰輪 下部 無輪 高台部分 灰輪
3区 23-72	15		陶器	鉢	(30.0)	—	7.3		口縁1/8~体部1/8	底赤系Y8/3	良好密	長石	02知 外・内面:無輪 灰輪
3区 23-73	15		陶器	覆鉢	—	(16.4)	<12.4>		底部1/5	新土:黄緑系Y8/4 胎土:増子Y8/5.6	良好密		02知 灰輪 内面:【人】短形蓋
3区 24-74	16		金属	熊管	(3.6)	(1.3)	(1.2)						吸口
3区 24-75	16		金属	熊管	<4.8>	1.1	0.6						吸口
3区 24-76	15		金属	甲冑中金	1.4	1.4	0.1						甲冑中金 式本例
3区 24-77	16		金属	古銭	2.5	2.5	0.1						開元通寶
3区 24-78	16		金属	古銭	2.4	—	—						元龜通寶?
3区 24-79	16		金属	古銭	2.5	2.5	0.1						寛永通寶
4区 27-1	16		土師質土器	5455汁	(12.2)	—	<1.3>		口縁小	細砂粒含む、赤色粒・長石・石灰 金色葉母	良好		外・内面:02知?子
4区 27-2	16		土師質土器	5455汁	—	(5.0)	2.1		体部1/4~底部1/4	細砂粒含む、赤色粒・長石・石灰 金色葉母	良好密		外・内面:02知?子 底面:同底面?の灰

※ (箇所) は局元部、<箇所>は>取付部

遺構名	図 番号	写真図 原番号	種別	種類	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	部位	色調	構成	出土	備考
4区 27-27	16		陶器	灯明瓦皿	(11.0)	(6.0)	1.8	口縁～底部	灰土に赤い、黄緑10YR7/3 輪郭土:黄緑7.5YR3/1	良好部		07a <97a> 鉄輪
4区 27-28	16		陶器	仏蓋器?*	—	(6.0)	3.0	体部～底部1/4	灰黄2.5Y7/2	良好部		07a 一部灰輪
4区 27-29	16		陶器	仏蓋器?*	—	(5.2)	<3.3>	脚部1/4	灰土:灰黄2.5YR7/3 輪郭土:灰黄緑2.5Y7/4	良好部		07a 底部灰輪
4区 27-30	16		陶器	燈鉢	—	(15.0)	<7.3>	底部1/3	灰土に赤い、黄緑5YR4/4 輪郭土:赤色2.5YR7/3	良好部		07a 鉄輪 底面:白磁赤切の痕
4区 28-31	16		土師質土器	台<4>51*	(6.0)	(4.8)	<1.4>	口縁～底部1/4	黒5YR6/6	良好部	赤色配・長石・石英	外・内面:07a?*
4区 28-32	16		土師質土器	台<4>51*	(6.0)	(5.0)	2.1	口縁～底部	に赤い、黒5YR6/4	良好部	細砂粒含む・赤色配・白色配・長石・石英	外・内面:07a?*
4区 28-33	16		土器	香炉	—	(7.0)	3.2	体部～脚部	黒5YR6/6	良好部	赤色配・金色雲母	外面:07a?*
4区 28-34	16		土器	火鉢 (香炉?)	(11.2)	(10.0)	6.1	口縁1/4～底部1/4	に赤い、黒7.5YR6/4	良好部	赤褐色含む・白色配	外・内面:07a?*
4区 28-35	16		土器	香炉	(13.6)	(12.0)	<5.1>	口縁～底部小	黒5YR6/6	良好部	赤石・石英・金色雲母 研粒 多い	内面:07a?*
4区 28-36	16		土器	内耳土器	(24.0)	(21.0)	8.9	口縁～底部	外表面:赤い、黒7.5YR6/4 内面:赤い、黄緑5YR4/3	良好部	赤色配・長石・金色雲母	外・内面:07a?*
4区 29-27	16		土器	内耳土器	(27.8)	(26.0)	4.7	口縁～底部	に赤い、黒5YR6/4	良好部	細砂粒含む・白色配・長石・石英・ 金色雲母	外・内面:07a?*
4区 29-28	16		土製品	人形類	<1.6>	2.4	0.9	体部	に赤い、黄緑10YR7/2	良好部		
4区 29-29	16		金属	煙管	6.7	1.15	0.9	煙口				煙口
4区 29-40	16		金属	古銭	2.25							孔径 0.6(cm) 夏水溝管
4区 29-41	16		石製品	石臼	<15.0>	<10.0>	57.80	上臼縁1/1.5	灰白7/1	良好部		直径(14.0)cm 鞍山岩 磨面:磨粒の跡のみ残る?で 鋭い?石
4区 29-42	16		石製品	石臼	<22.8>	<12.3>	<12.0>	上臼縁1/1.5	灰白10Y7/1	良好部	黒色配・長石	直径(30.0)cm 鞍山岩
4区 29-43	16		石製品	石臼	<25.1>	<12.5>	<11.6>	上臼縁1/1.5	灰白10Y7/1	良好部	長石・石英	直径(17.0)cm 鞍山岩
4区 29-44	16		石製品	輪軸石?	(9.3)	(10.0)	7.2	口縁～底部1/4	灰白10Y7/1	良好部	長石・石英	鞍山岩

第4章 まとめ

第1節 栗原氏屋敷跡の遺構

今回の発掘調査では平安時代・中世の遺物をともなう落ち込み・石列・溝状遺構、中世の遺物集中地点、近世の水路・道、近代の石列・畑の畝が検出された。(第29図)。大翁寺北側の1区では明確な堀や土塁の遺構は確認できなかったが、西側では水流の強い流路があった状況が確認できた。また、東側では落ち込み・石列・溝状遺構を検出した。平安・中世・近世の遺物が出土している。

妙善寺北側の2区、3区では、3区の西側で中世の遺物集中地点を検出した。3区の東側では現況とは流路の異なる近世の水路を検出した。多量な近世の陶磁器類とともに近世の甲州金(新甲金)が出土した。2区では地山の礫層高いことが分かった。明確な遺構はないが地山礫層状の水成堆積の砂礫層からは中世・近世の遺物が出土している。この砂礫層の遺物の中に小破片ではあるが溶融物が付着した土器の小皿が出土している。何らかの金属を溶融させる作業の道具の可能性がある。また、地山礫層が落ち込む地点では平安時代の坏があまり破片にならずに出土している。4区では3区から続く近世の水路と水路の南側を沿う道を検出した。また、4区の東側では近世の水路の上に近代の石列と畑の畝を検出した。石列と畑の畝は明治40年の水害時に堆積したと考えられる厚い白砂層に覆われていた。3区と4区では地山の礫層は厚く堆積した砂層の下の深い位置で検出された。

地山の礫層の検出位置の違いなどから埋没した谷の旧地形を考えることができた。1区の西側では強い水流が流れることが分かり、谷地形のより深い中央部に近い方であったと考えられる。1区の東側では谷地形は始まっているが強い水流は流れてこない谷端の裾部と考えられる。2区と3区の西側では地山が張り出していて、谷はより北側を回っていることが分かった。3区の東側と4区では調査区の南側まで谷が入ることが分かった。これは日川の旧流路が蛇行することによる埋没した微地形の変化と考えられる。3区西側の地山の張り出しは平場として中世には利用されていたと考えられる。また、1区東側にみられる谷地形の裾部には石列をともなう溝、あるいは道を整備していたことも考えられる。

近世の水路から出土した金貨には表面に「貳朱」、「五三の桐紋」、「松木」の験極印が見られ、裏面の中央部に「甲」、下部に「安」の極印が打刻されている。このことから、この金貨は宝永4年(1707)に柳沢吉保が元禄金に準じて改鋳を行った「甲安中金」の貳朱判であると考えられた。甲斐黄金村湯之奥金山博物館のご指導の下、西脇康氏に密度測定による金品位の推定をして頂いた。測定結果を以下に記す。

古金貨密度測定結果

2018年7月27日 於東京大学史料編纂所302号室 海外S科研

測定者 西脇 康(東京大学史料編纂所所員・東京国立博物館客員研究員・日本計量史学会理事)

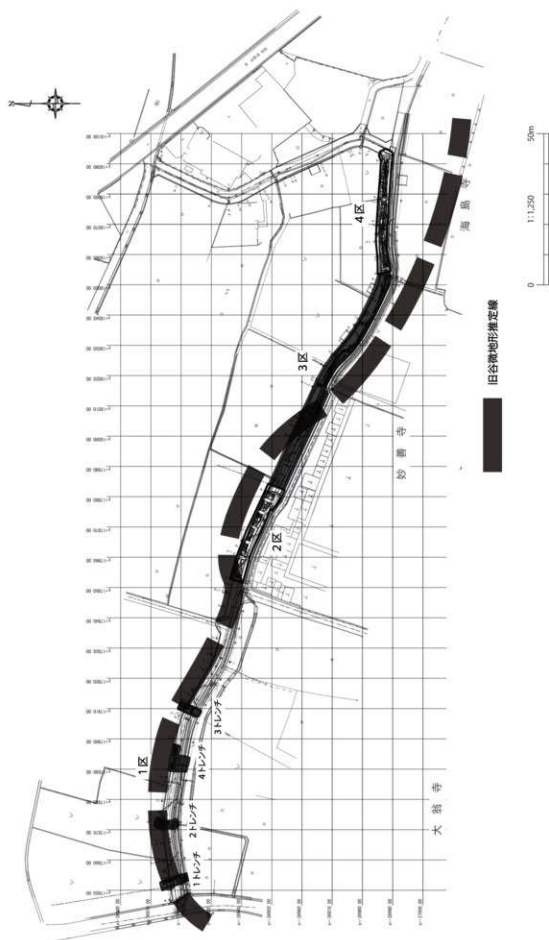
立会者 高野高潔(昭和測量株式会社文化財調査課調査研究員)

測定機器 メトラー社電子天秤(AG204 1122061617 2018年6月19日メトラー校正)
および密度キット

測定環境 工業用純水内に水没 水温 28.1℃(自動校正)

試料 甲州金 新甲金 甲安中金(収集界通称は下安金) 貳朱判

質量 1.88 グラム



第 29 図 全体図

密度測定 ① 13.68 ② 13.76 ③ 13.69
密 度 (中央値を採用) 13.69 → 13.7
推定金品位 51.16 → 51.2

測定の結果、金の推定品位から、水路より出土した甲州金は新甲金の甲安中金の金品位と合致することがわかった。甲安中金は金品位が低い金貨であり、後の甲重金や甲定金の方が、甲安中金よりも高い金品位で改鋳されている。このため、甲安中金を改鋳へと手放す動きが進んだ結果、現存するものが少なく、希少な資料であることが分かった。

また、甲安中金は宝永4年(1707)に製造が開始され、宝永8年(1711)までの4年間という通用期間の短い金貨である。この期間内に金貨が水路に混入した可能性が高いことから、宝永年間にはすでに水路は検出されたような分岐ルートを行っていたと考えられる。3区で検出された現況の水路とは異なるこの分岐ルートは更に時代をさかのぼり、1区で落ち込みの最下部から検出された平安時代・中世の遺物をともなう石列・溝状遺構へと続いていたことも考えられる。

今回の発掘調査の結果、栗原氏屋敷跡の北辺は現況よりも深い谷地形を持ち、幾度も強い水流が流れるような状況であったことがわかった。また、中世の栗原氏拠点の地ばかりでなく近世には甲州金が流通するような繁華な宿駅の地であったことが分かった。また、甲州金が出土し宝永年間にはすでに整備されていたと考えられる分岐を持つ水路のルートが、更に時代をさかのぼり栗原氏屋敷跡の北辺を流れていたことも考えられた。平安時代から明治40年の水害に至るまでの日川の影響を受けた地形形成の微細な状況も明らかにすることができた。

引用・参考文献

- 西脇 康 2016『甲州金の研究』(日本史史料研究会研究選書 11)
日川村誌編纂委員会 1959『日川村誌』
山梨市役所 2005『山梨市史』史料編考古・古代・中世
『甲斐国志』第一巻(大日本地誌大系 44) 1968 佐藤八郎校訂、雄山閣

第2節 栗原氏屋敷跡の中世土器（第30図・31図）

今次の発掘調査により出土した中世土器について概要を整理する。量は少ないものの器種には、かわらけ・内耳土器・鉢・播鉢等がみられる。これにわずかながら天目茶碗、常滑甕、美濃大窯期灰軸丸皿等の陶器破片が伴う。

最も出土量が多かったのは、器壁が薄めで口縁の肥厚は少なく全体に深めの器形をなす一群である。破片資料ながら3区にてまとまっており、口径から概ね三群に分類が可能であり第30図に示した。6.0～9.5cm、10.0～12.0cm、12.1cm以上という三区分別である。それぞれの群においても細部の形態には多様性がある。口縁が外反（6.7,15.27,33等）、やや内湾（13.14,17.19,22,29等）、直線の（10、11,16,18,30,31,32等）などである。全体的にはやや内湾気味及び直線の深めのタイプが多い。この傾向は1区・2区にも共通する（第29図）。これら大中小のかわらけがセットとなって使用されたものと思われるが、時期差も考える必要があり形態と時期の関係や組み合わせは今後の課題でもある。

伴出遺物には土製雑器や陶器類がある。1区では大中小のかわらけと共に内耳土器（第29図4-10）及び鉄軸天目茶碗（4-9）がある。内耳土器は深めのもの。2区では内耳土器に加え土製播鉢、鉄軸天目とみられる胴部破片（9）、陶器片口鉢（14）がある（第29図）。また10は金属の溶融に用いたとみられる容器破片であり金も含めて対象物が問題となる。3区でも内耳土器（第30図37）と土製播鉢（39）が伴う。さらに大窯期の灰軸丸皿（36）も破片ながら1点出土した。16世紀代に位置づけられるものであるが、この時期に特徴的なかわらけは少ないものの第30図8、14、17等はその可能性はある。

以上のように少ない出土品ではあるが、かわらけに内耳土器や土製播鉢などの日常雑器が伴っている。これに天目茶碗が出土するとすれば館跡という性格も当てはまるか。

時期について今回出土のかわらけの多くは、まず岩崎氏館跡に類例が求められる（山梨県教育委員会1977）。岩崎氏館跡出土遺物は13世紀中～15世紀中と位置づけられており、特に跡部氏の敗戦後15世紀中頃廃絶したとされることから（山梨県2004）時期特定が可能な資料である。また佐々木満氏によって12世紀から17世紀までの土器編年が組み立てられており、ここでも岩崎氏館跡や秋山氏館跡の資料が参照されている（佐々木2004）。内耳土器にしても佐々木氏の編年では15世紀初頭にはすでに認められており、さらに本遺跡に近い連方屋敷では土師質の丸底タイプ内耳土器が出土することからここに一つの画期の可能性が求められている（佐々木2011）。播鉢については、16世紀前半には瓦質製品は消滅し土製が普及するとされる。本遺跡でも土製播鉢が伴っており、どこまで遡るかが課題となる。以上、かわらけ、内耳土器、播鉢等の組み合わせからすると15世紀から16世紀代に置かれることは確かと思われるが、かわらけからみて岩崎氏館跡や連方屋敷の事例（山梨市役所2005）を参考にすると、多くは15世紀代に位置付けることができるのではないかと。但し大中小の規格が認められたかわらけについては、セットということに加えて時期差も考える必要がある。特に16世紀後半では大小の変化にも富む傾向がある。

なおかわらけについては、3区で確認された胎土砂質のロクロ成形製品にふれておく（第30図2.3.4）。法量は小さいが胎土や器形が13世紀代とされる甲府市小瀬氏館跡、韮崎市大輪寺東遺跡、北杜市当町遺跡等の例に類似する（伊藤1989）。但し江戸初期の可能性もあり検討が必要である。

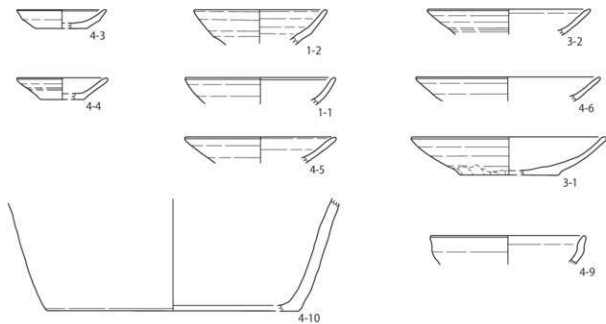
今回の調査範囲は栗原氏館跡とされる一隅にあたるものの発掘範囲が限られていることから、明確な遺構やそれに伴う十分な遺物は得られなかった。しかし15世紀代を中心として16世紀代にまで至るかわらけ一群とそれに伴う雑器も確認することができた。今後の調査に期待したい。

なお3・4区を中心に江戸後期の陶磁器類も多く出土した。この地区には該期の水路が走り、さらに近隣は甲州道中が通り宿駅も設けられていた地域である。17世紀代の志野焼陶器も少量あるが、磁器の大半は18世紀後半の肥前及び19世紀代の瀬戸・美濃製品であった。陶器にも瀬戸・美濃系碗や鉄軸灯明具等が目立つ。甲州金「甲安中金」も水路沿いから出土しており、館跡廃絶後も主要路沿いの集落や寺院関連地域として発展していたことが確認できよう。

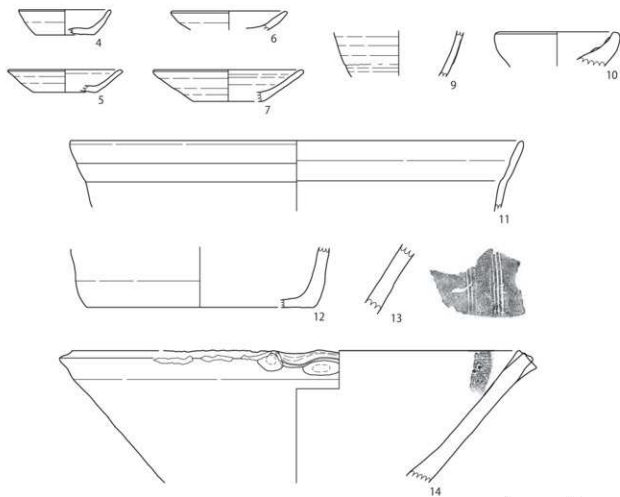
引用文献

- 伊藤正幸 1989「甲斐国における中世後半の土器様相」『山梨県考古学論集』Ⅱ 山梨県考古学協会
佐々木満 2004「山梨における中近世土器の様相」『山梨県考古学論集』Ⅴ 山梨県考古学協会
佐々木満 2011「山梨における中近世土器の様相」『山梨県考古学論集』20号 山梨県考古学協会
山梨県教育委員会 1977『(伝) 岩崎館跡発掘調査報告書』
山梨市役所 2005『山梨市史』史料編考古・古代・中世
山梨県 2004『山梨県史』資料編7 中世4 考古資料

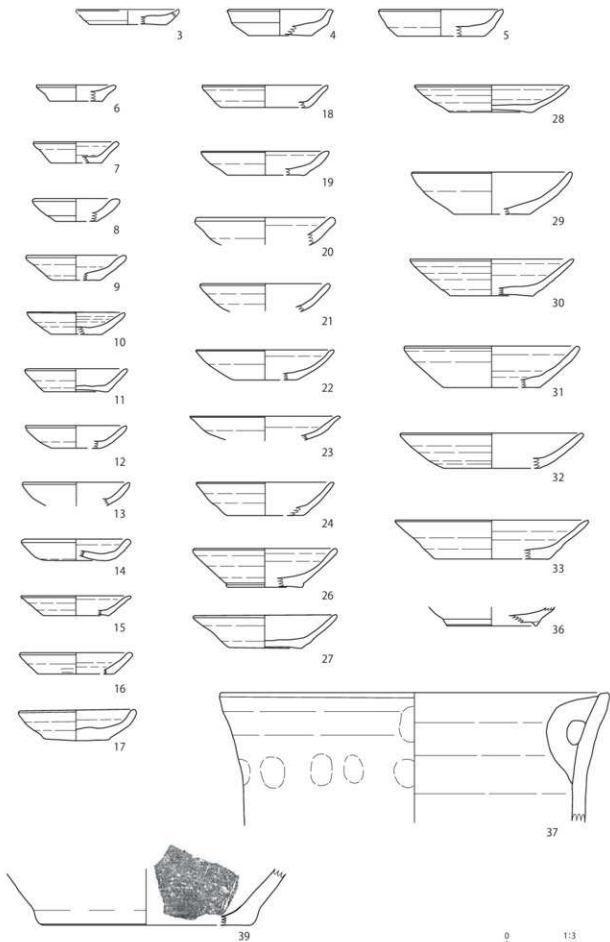
1区 (1~4トレンチ)



2区



第30図 1区・2区 中世土器・陶器



第31图 3区 中世土器・陶器



調査区遠景（西から）



調査区全景西側（1区：北から大翁寺を望む）



調査区全景中央（2区・3区：北から妙善寺を望む）



調査区全景東側（4区：北から海鳥寺を望む）



調査区遠景（東から）



調査前（西から）



調査中（西から）



調査後（西から）



1区1トレンチ 検出状況(東から)



1区1トレンチ 検出状況(北から)



1区1トレンチ 検出状況(東から)



1区1トレンチ 検出状況(北から)



1区2トレンチ 検出状況(西から)



1区2トレンチ 検出状況(西から)



1区2トレンチ 検出状況(南から)



1区2トレンチ 検出状況(西から)



1区3トレンチ 検出状況 (西から)



1区3トレンチ 検出状況 (北から)



1区3トレンチ 検出状況 (南から)



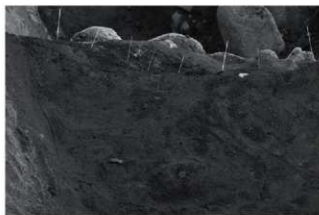
1区3トレンチ 遺物出土状況 (西から)



1区3トレンチ 検出状況 (東から)



1区4トレンチ 遺物出土状況



1区4トレンチ 遺物出土状況 (西から)



1区4トレンチ 検出状況 (東から)

図版4



1区4トレンチ 検出状況 (南から)



1区4トレンチ 検出状況 (西から)



1区4トレンチ 検出状況 (東から)



1区4トレンチ 検出状況 (東から)



1区4トレンチ 検出状況 (東から)



1区4トレンチ 作業風景 (西から)



1区4トレンチ 堆積状況 (西から)



1区4トレンチ 石列 (西から)



1区4トレンチ 石列 (北から)



1区4トレンチ 石列 (東から)



1区4トレンチ 石列 (西から)



1区4トレンチ 作業風景 (東から)



2区 全景 (北から)



2区 作業風景 (東から)



2区 検出状況 (東から)



2区 検出状況 (西から)



2区 検出状況 (東から)



2区 検出状況 (南から)



2区 遺物出土状況



2区 検出状況 (南から)



2区 検出状況 (西から)



2区 検出状況 (東から)



2区 検出状況 (西から)



2区 検出状況 (東から)



2区 検出状況 (西から)



2区 遺物出土状況 (北から)



2区 遺物出土状況 (北から)



2区 遺物出土状況 (北から)



3区 全景 (北から)



3区 全景 (北から)



3区 検出状況 (南から)



3区 遺物出土状況



3区 作業風景 (東から)



3区 検出状況 (東から)



3区 遺物出土状況



3区 遺物出土状況



3区 遺物出土状況 (北から)



3区 下層確認状況 (北から)



3区 下層確認状況 (北から)



3区 下層確認状況



3区 水路検出状況 (西から)



3区 作業風景 (西から)



3区 作業風景 (東から)



3区 作業風景 (東から)



3区 水路堆積状況 (西から)



3区 遺物出土状況 (北から)



3区 遺物出土状況 (北から)



3区 遺物出土状況



3区 水路検出状況 (西から)



3区 水路検出状況 (北から)



3区 水路検出状況 (北から)



3区 遺物出土状況 (北から)



3区 水路検出状況 (北から)



3区 下層確認状況 (東から)



3区 甲州金出土状況 (東から)



3区 甲州金出土状況 (北から)



3区 水路検出状況 (西から)



3区 水路検出状況 (北から)



3区 水路検出状況 (東から)



3区 水路検出状況 (南から)



3区 水路検出状況 (西から)



3区 水路検出状況 (南から)



3区 水路検出状況 (東から)



3区 水路検出状況 (西から)



4区 全景（北から）



4区 作業風景（東から）



4区 燧検出状況（西から）



4区 燧検出状況（東から）



4区 遺物出土状況（西から）



4区 作業風景（東から）



4区 水路検出状況（西から）



4区 水路検出状況（東から）



4区 水路検出状況 (西から)



4区 水路検出状況 (東から)



4区 水路検出状況 (北から)



4区 水路検出状況 (西から)



4区 水路検出状況 (西から)



4区 遺物出土状況 (東から)



4区 下層確認状況 (南から)



4区 下層確認状況 (北から)

図版 14



1区1～3トレンチ



1区4トレンチ



1区4トレンチ



2区



2区



2区



3区



3区



3区



3区



3区



3区



3区



3区



3区



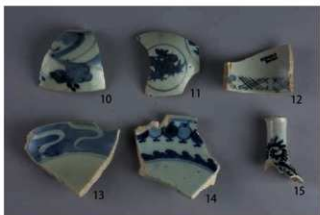
3区



3区



4区



4区



4区



4区



4区



4区



4区



3区 古墳・平安



3区 中世



3区 近世



3区 近世



3区 近代



4区 近世・近代

報告書抄録

フリガナ	ニシダイセキ・クリハラシヤシキアト							
書名	西田遺跡・栗原氏屋敷跡							
副書名	県営畑地帯総合整備事業上栗原地区農道2号(1工区)改良工事に伴う発掘調査報告書							
編著者名	雨宮弘聡(山梨市教育委員会) / 高野高潔(昭和測量株式会社)							
編集機関	山梨県峡東農務事務所 / 山梨市教育委員会 / 昭和測量株式会社							
所在地	〒404-8601 山梨県甲州市塩山上塩後 1239-1 Tel. 0553-20-2706 〒405-8501 山梨県山梨市小原西 843 Tel. 0553-22-1111 〒400-0032 山梨県甲府市中央 3-11-27 Tel. 055-235-4448							
発行年月日	西暦 2019(平成31)年 3月15日							
フリガナ	フリガナ	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				(㎡)	
ニシダイセキ 西田遺跡	ヤマナシヤン 山梨県 ヤマナシヤンモコウリバウ 山梨市上栗原	19205	05139	35°	138°	20171215 ~ 20180320	722	農業基盤 整備事業 (農道)
クリハラシヤシキアト 栗原氏屋敷跡	アサニシダ 字西田 11番5外		05178	40°	41°			
				00°	53°			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
西田遺跡	散布地	中世	溝状遺構	土師質土器、土器、陶器				
栗原氏屋敷跡	城館跡	近世	溝状遺構、水路	土器、陶器、磁器、銭貨、金属製品、石製品				

山梨市文化財調査報告書 第32集

西田遺跡・栗原氏屋敷跡

—県営畑地帯総合整備事業上栗原地区農道2号(1工区)改良工事に伴う発掘調査報告書—

発行日 平成31年3月15日

編集 昭和測量株式会社

〒400-0032 山梨県甲府市中央 3-11-27 Tel. 055-235-4448

発行 山梨県峡東農務事務所

山梨市教育委員会

昭和測量株式会社

印刷・製本 株式会社 内田印刷所

〒400-0032 山梨県甲府市中央 2-10-18 Tel. 055-233-0188